

2024-2025

Yokohama National University  
Organization for Local Collaboration Networking  
Global-Local Education and Research Center

横浜国立大学  
地域連携推進機構  
地域実践教育研究センター

Annual Report  
2024-2025



YOKOHAMA

*Think Globally,*  
**Act Locally.**

地域実践教育研究センター  
Global-Local Education and Research Center

# 地域実践教育研究センター

Global-Local Education and Research Center

地域実践教育研究センターは横浜国立大学内の各部局を横断的につなぎ、「地域」に関わる「教育・研究」を実施・推進することにより、地域活性化と地域創造を促進させていきます。

## ●設立経緯・これまでの歩み

地域実践教育研究センターは2004年に文部科学省による「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」事業に採択されたこと契機に、2004年の後期（秋学期）から「地域課題プロジェクト」を開始し、2005年から「地域交流科目」の設立に向けてコア科目などの各授業を開設しました。その後、2006年から「地域交流科目」の設立および本格運用をし、2007年に「地域実践教育研究センター」が開設されました。また、2012年からは大学院副専攻プログラムとして「地域創造科目」を設置しました。

2017年には「地域連携推進機構」が設立され、2019年度から地域実践教育研究センターは地域連携推進機構の機構内センターとして位置付けられました。

現在、学部副専攻プログラム「地域交流科目」の地域課題実習においては毎年数百名ほどの学生が履修・参画しており、横浜・神奈川地域をはじめ国内外の各地域において地域活性化、地域支援活動を実施・展開しています。

## CONTENTS . . . . . 01

### 地域交流科目 [学部 副専攻プログラム] . . . . 02-17

Under graduate Sub-major program "Local-exchange Subjects"

#### 地域課題実習

01. アグリッジプロジェクト
02. 鶴見区での外国人児童の学習支援
03. BOSAI ラボ
04. 地域と移動から見たまちづくりの実践～ロカモビプロジェクト～
05. コットンおとなりさんプロジェクト
06. キャンパスの魅力を耕すプロジェクト
07. "縁食の場" を耕すプロジェクト
08. ジビエ料理研究会
09. はまみらいプロジェクト
10. オモロイ病院プロジェクト
11. 島プロジェクト in 鳥羽
12. 岩手らばーず
13. 都市と里山の自然を楽しむライフスタイル
14. New-NewTown プロジェクト
15. 転倒しない街共創ラボ「こらぼ」
16. おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト
17. 伝統茅葺き民家「花三郎の家」継承プロジェクト
18. データで捉える地域課題・地域経済 2024
19. サコラボ
20. 里山コミュニティデザイン
21. ローカルなマテリアルのデザイン
22. まちに開いた交流の場のデザイン
23. みなとまちプロジェクト
24. ワダヨコ
25. ハマの屋台プロジェクト ～屋台からのまちづくり考える～
26. 南米農村部での学びを生かした横浜『共生』プロジェクト (えんぴつルーム)
27. Yokohama Univer-City (YUC)

### 地域創造科目 [大学院 副専攻プログラム] . . . . 18-19

Graduated school Sub-major program

" Creative education program about local problems"

### 研究 . . . . . 20-21

Research

- 1. 学際的研究
- 2. 地域研究

### 地域連携推進機構 . . . . . 23

Organization for Local Collaboration Networking

- ・ 地域連携推進機構について
- ・ 地方自治体との連携協定
- ・ 社会・地域課題の解決に取り組む Y-Plat & NCC

### 関連教員 . . . . . 24-25

The Relationship Professors

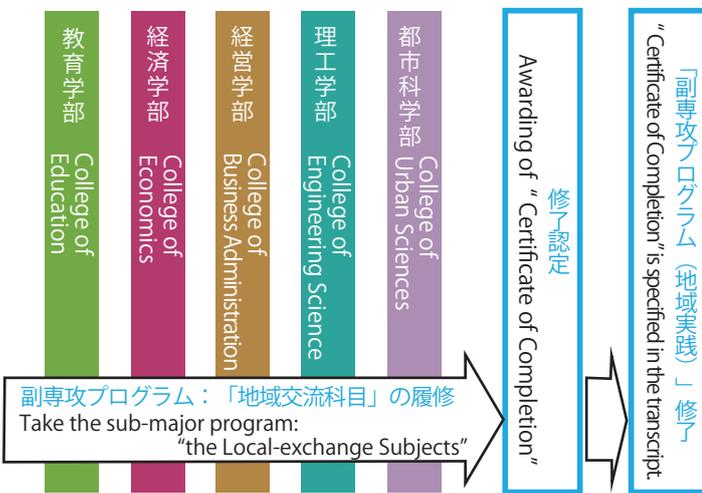
## ■地域交流科目について

地域交流科目は「グローバルな視野をもって地域課題を解決する、先端的就複合的な実践能力を身につけるプログラム」として、横浜国立大学の全学部生が履修可能な副専攻プログラムです。

このプログラムは、①コア科目、②講義科目、③実践科目の3つの科目で構成されています。所定要件の10単位以上を習得すると、副専攻プログラムの修了認定を受けることができます。

## ■About the "Local-exchange Subjects"

The Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects" connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects, ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. Students can receive completion authorization when they acquire the prescribed credits of the sub-major program.

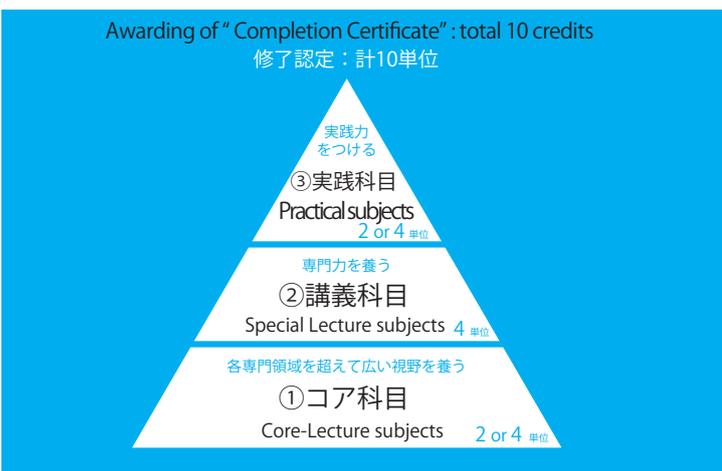


## コア科目：「地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)」

回	講義テーマ	講師
1	概論(1)オリエンテーション・横浜の成り立ち	志村真紀・内海宏
2	概論 (2) 横浜という都市を通して日本の近代化を語る	野原卓
3	概論 (3) 世界の中の横浜、日本の中の横浜	志村真紀
4	フィールド (1) 都心地域の現状と課題	野原卓
5	フィールド (3) 中間地域の現状と課題	志村真紀
6	フィールド (2) 郊外地域の現状と課題	内海宏
7	今日の横浜の都市課題(1) ～人口減少社会に向けて～	稲垣景子
8	参加型授業 (1) 現地調査	-
9	参加型授業 (2) 中間報告会	志村・内海・秋元
10	今日の横浜の都市課題(2) 国内外の港町における地域課題と再生モデル	山崎満広
11	地域再生モデル (1) クリエイティブシティと都市政策	秋元康幸
12	地域再生モデル (2)都市農地再生と地域まちづくり	内海宏
13	地域再生モデル (3)商店街と地域まちづくり	志村真紀
14	地域再生モデル (4) 国内外の人口減少都市における都市構造と土地利用	矢吹剣一
15	参加型授業 (3) 各地域の課題と解決方法について発表・討論する	志村・内海・秋元

## コア科目：「地域連携と都市再生A(かながわ地域学)」

回	講義テーマ	講師
1	オリエンテーション	志村真紀
2	地域をめぐるお金の流れ：地域経済	池島祥文
3	地方行財政	伊集守直
4	(福祉と) 地域経済	伊集守直
5	エネルギー	大森明
6	サステナブル海洋都市に向けて	信時正人
7	真鶴町 ～相模湾西岸部の海と陸	下出・高山・水井
8	箱根町の観光まちづくりへの取り組み	箱根町行政
9	みんなのまちづくりゲームのプレー方法	池島・志村・伊集・浅野
10	第1回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	池島・志村
11	第2回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	志村・伊集
12	県西・小田原市：SDGsの時代における地域経営 ～持続可能な地域社会モデルへ～	小田原市 行政
13	第3回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	伊集・志村
14	第4回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	志村・池島
15	第5回 参加型授業 最終レポート発表会・討論会	池島・伊集・志村

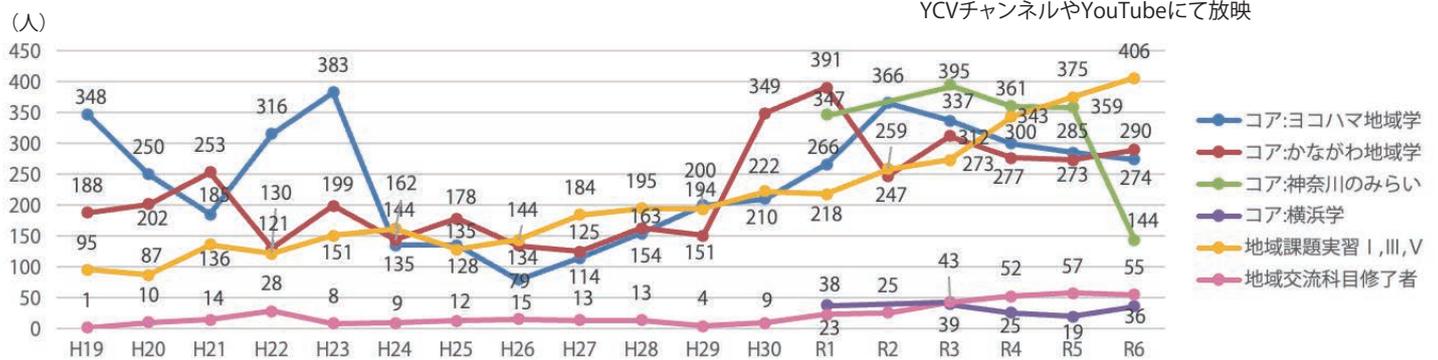


◀ヨコココTV 第3弾：  
～アグリッジの挑戦～

ヨコココTV 第4弾▶  
～地域ヘトビダセ!～



横浜ケーブルビジョン(YCV)との連携による「ヨコココTV」  
YCVチャンネルやYouTubeにて放映



コア科目と地域課題実習の履修者数 The study number of people





## アグリッジプロジェクト Agridge Project



「農」と「食」の力で地域活性化を目指す

Aiming to revitalize local communities through the power of “agriculture” and “food”

■学生：26名（清水翼，伊東秀真，安宅建人，石井夏帆，上床穂乃香，藏重光希，田中麻奈美，村山美咲，白田大知，工藤優太，石川智清，今井悠翔，北浦竜之介，牧野雄樹，高村和佳奈，北原隆之介，柳田紗希，佐藤結衣，田中直樹，石塚健太郎，山崎琴里，疋田和子，八坂麟太郎，矢野瑞樹，GU MINJIN, Han Sreynet）

■担当教員：池島祥文，小林誉明

■連携・協力：藤巻芳明，常盤台コミュニティハウス，常盤台地区連合町内会，株式会社横浜ビール，和田町商店街，矢郷農園，白嬉~shiroki~，炭火烧肉大将軍，社会福祉法人開く会，特定非営利活動法人居場所そら，ひまわり亭，アジアキッチンわだ，異食堂すみれ，横浜ケーブルビジョン，南神大寺小学校，野菜ソムリエコミュニティかながわ

■活動地域：学外農地，横浜市（保土ヶ谷区他），小田原市，いずみ野など

■サイト：<https://agridge-chiiki-kasseika.localinfo.jp/>

アグリッジプロジェクトは農業による地域活性化を理念に掲げ、Agrink・和田べん・商品開発・Agreetingの4部門で活動しています。

Agrink部門は学生と農業の繋がりを創ることを目指して活動しています。主に学外農地で野菜の栽培を行い、各野菜の栽培方法の調査や販売PRに取り組む「品目リーダー」を決めて実施しています。その野菜を基盤として今年度は、学内や地域の方など既存の関係を大切にすることに加えて新しい関係の構築に注力しました。

和田べん部門では野菜ソムリエの方と学生、連携先のお弁当屋さんとの3者による連携を通して新たなメニュー考案、そして学生に野菜を食べてもらう機会の創出しました。商品開発部門では、いずみ野の白嬉~shiroki~様と新しく連携し、学生が育てた野菜を使用したパウンドケーキの「横国ベジケーキ」を作り、これまで生の野菜の提供ができる範囲にとどまっていたところを時間や場所のハードルを越え、地元商店とアグリッジを知ってもらう機会として活性化に取り組みました。Agreeting部門では、畑で育てたさつま芋を使った焼き芋も企画の実施や南神大寺小学校へ出向く出張授業、小学生に畑に訪問してもらう学習機会を設けました。これらにより、新しく子育て世帯や小学生たちと繋がる機会を創出、また土や野菜に触れて親しみを持ってもらう食育機会の提供を行いました。さらに、留学生と地域の方を巻き込んだ郷土料理企画では、新しく関わる留学生と既存の関係のある地域の方々を繋げる交流機会の第一歩、そして地域の郷土料理を繋げていく活性化に取り組みました。このように新たな発想で商品企画、交流企画を実施しました。

今後は、これまでの繋がりに加えて今年度新しく関係性を広げた方々との繋がりをより濃く、大切にしていきたいと考えています。そして、団体との個の繋がりでなく、より温かい交流を広げていただける場を提供していけるような活動に取り組んでいきます。



## 鶴見区での外国人児童の学生支援「つるみ〜によ」 “TSURUMI-NYO” as Learning Support for Children with Foreign Roots in Tsurumi Ward



多文化共生への理解を深める  
外国とつながる子供たちの学習支援

Supporting children with foreign roots to deepen our understanding of multicultural coexistence

■学生：2名（石川楓夏、石田琴音）

■担当教員：山崎圭一

■連携・協力：NPO法人ABC Japan

■活動地域：横浜市鶴見区

■サイト：<https://www.abcjapan.org/tsuruminho/>

私たちは、横浜市（とくに鶴見区）の日系ブラジル人の子どもたちへの支援活動と、多文化共生にかかわる諸問題を、経済学あるいは政治経済学の視点を中心に分析する活動を行っています。対象としては、基本的には横浜市鶴見区での多文化共生にしばらく、鶴見区に本部のある、NPO法人ABC Japanの活動に参加しています。ABC Japanは、小学生だけではなく、中高生の学習支援や高校受験・大学受験へのアドバイスも行っており、子どもと親の両方を招いてのイベントも毎年開催しています。

私たちが主に取り組んでいる活動は、火曜日の午後に行われる「つるみ〜によ」という国語と算数の宿題支援です。支援する児童の中には、来日直後で日本語がほとんど話せない児童もいて、こうした学習支援の重要性を実感しながら日々活動に励んでいます。文献からの研究では、経済学の面、地方財政学、経営学、教育学など多様な観点から、山崎先生のご支援の元、外国とつながりのある子どもたちの諸問題について考えを深めました。

今後は、この一年を通して得られた経験や、活動のなかで出会った方々とのつながりを大切に、外国につながる子どものさらなるケア・サポートに尽力したいです。ABC Japanの提供するイベントには奥のボランティアが必要となるものもあります。このような支援に積極的に参加するなど、多文化共生社会の実現に少しでも貢献できるよう、私たちにできることは何かを常に考え、行動に移していきたいと思っています。



## BOSAIラボ BOSAI Lab. (Disaster Mitigation Lab.)



防災・減災のために、私たちができることを  
Do our best for “BOSAI” (disaster mitigation)

- 学生：27名（乾大和，明日海斗，大塚晴紀，粕谷昌貴，藤田光，堀雅也，鄭宇軒，鳥谷佳菜，得田実愛，小松史弥，榎田航太，河村優結，柳澤美那，湯本莉衣，石川巧，鈴木皓斗，中村稔平，脇田知怜，原口時臣，岡野高太郎，中村仁哉，笠置陽土，古田耕平，吉原春郎，渡邊完太，往田美咲，高山翔遠）
- 担当教員：小松怜史、細田暁、稲垣景子
- 連携・協力：豊穡な社会のための防災研究拠点，横浜市保土ヶ谷区・中区
- 活動地域：常盤台キャンパス周辺・保土ヶ谷区各所・関内地区
- サイト：<https://bosai-lab.ynu.jp/>

BOSAIラボは、大学生としてできる防災・減災に資する活動を考え、研究し、実践していくことを目的として活動するプロジェクトです。24年度は横国生・地域連携の実践チームと、防災意識・伝承伝達の研究チームの計4チームをもとに、研究活動に取り組むとともに、イベントの開催などを通して活動成果を実践しました。

具体的には、関内地区をフィールドとし、障害のある方や観光客の災害時の行動や、ショッピングモールの防災、災害時における情報伝達、旧地名などの研究を行いました。また、留学生向けの防災イベントや防災啓発資料の作成、地域の子供向けの防災イベント、保土ヶ谷区などと連携したイベントの開催、YouTubeやInstagramなどでのShort動画の配信を通して活動内容を実践しました。

研究成果の発表という面では、10月に熊本県で開催されたぼうさいこくたい2024に参加しポスター発表を行ったほか、都市科学・地域連携シンポジウム、そして3月に行われる仙台防災未来フォーラムや保土ヶ谷区主催の防災イベントに参加・出展し、ポスター発表およびプレゼンテーションを行いました。また、ホームページに各チームの活動報告を掲載したほか、有志の学生によってコラムを執筆し、ホームページで公開しました。

今年度のBOSAIラボでは、研究・実践の2軸に沿って活動を強力に推進するとともに、地域に根ざした実践的活動を始動させ、豊富な活動発表の機会から活動をブラッシュアップすることができました。今後もこうした活動を継続し、BOSAIラボが関わる地域・人々の防災のために努力していきます。



## 地域と移動から見たまちづくりの実践～ロカモビプロジェクト～ Community Development Practice from the Perspective of Locality and Mobility



都市をより魅力的にし、日常生活を彩る。  
Making cities more attractive  
and enriching everyday life.

- 学生：17名（伊藤広登，浴多佑，仙波亮太，渡部耀，今井薫，中原船登，延原翠，高木希海，辻慎太郎，峰龍太郎，山口慧，山口優生咲，孫嘉維，立川絵莉香，林勇輝，白岩元彦，宮内爽太）
- 担当教員：池島祥文
- 連携・協力：LocalIST(株)，京急電鉄(株)，(株)アットヨコハマ，横浜市地域まちづくり課，藤沢市都市整備課
- 活動地域：神奈川県横浜市（関内地区，横浜国立大学，京急富岡地区），藤沢市
- サイト：<https://mobilitydesign.localinfo.jp/>

ロカモビプロジェクトは、まちの移動のしやすさや暮らしやすさに注目し、地域の皆様と共に、まちの魅力を高めるための実現方策を描くことを目標に取り組んでいます。神奈川県内各地域で、カウンターパートナーの皆様と実社会の課題に取り組むことが特徴です。

2024年度は、17名の学生が3班に分かれて活動を行いました。みらいの地図班は、関内の魅力を若者に伝え、若い人なりに普段とは異なる楽しみ方で関内を堪能してもらうことを目指しています。今年度は関内マップの作成を実施し、第一弾では若者に関内の魅力を知ってもらうために関内の飲食店を紹介し、第二弾ではお散歩コースを紹介した関内マップを作成しました。また関内の魅力が伝わるように紙の地図、インスタグラムのハイブリッド形式での発信を行いました。これからも関内の街をよりよくしていくために活動していきます。富岡班は、産官学民連携のまちづくりプロジェクト「みんなの富岡・能見台丘と緑のまちづくり『おかまち』」の一員として活動しています。今年度は、地域の共有空間である「おかまちリビング」を中心に、企画実施を通じたまちの魅力発信や、地域の交流促進を目指して活動を展開しました。村岡班は8年後に開業予定の村岡新駅周辺において、新駅を中心としたまちづくりを住民の方々と行っていき、「住民が能動的にまちづくりに参加していくまち」を目指して活動しています。今年度は、富岡地区で展開している「マイまちマップ」の活用案の検討などを行いました。

学生が主体的に学びを得つつ、地域の魅力をより高めていけるように、地域の皆様、カウンターパートナーの皆様と共に活動してまいります。



## コットンおとなりさんプロジェクト Cotton Otonari-san(Neighbor) Project



CCT 42 117 118  
投稿 フォロワー フォロー中

CCT (コットン・コミュニティ・タウン)  
横浜市神奈川区コットンハーバー地区のマンション群でのコ  
ミュニティづくりのための活動を投稿します！  
CCTパークとプレイパークという2つの地域住民の居場所と  
PRをまっかっかに、神大生と隣国生とっしょに活動中！  
#CCT #コミュニティ #コットンハーバー #神大 #隣国 #PR



高層マンション群の住民が  
おとなりさんと繋がることのできる居場所を  
To create a place  
where residents of high-rise apartments  
can connect with their neighbors

- 学生：5名（美藤優斗，土本陸弥，林大地，守屋奈央斗，山下弘太郎）
- 担当教員：伊集守直，関美佐子
- 連携・協力：CCT (Cotton Community Town)，神奈川大学おとなりさん
- 活動地域：コットンハーバー地区
- サイト：[https://cottonct.org/about\\_cotton\\_otonari\\_pjt/](https://cottonct.org/about_cotton_otonari_pjt/)

高層マンション群では、幅広い世代かつ多くの人々が生活している一方で、内部でのコミュニティ形成や住民同士の交流が少ないという問題があります。特に近年は少子高齢化が加速し、住民間の助け合いや交流の重要性が大きくなっています。私達は横浜市神奈川区のコットンハーバー地区で、高層マンション群に住む人々が世代を超えて交流し、繋がりあえることを目指して活動しています。

私たちは2024年度、地域団体CCT(Cotton Community Town)や自治会、神奈川大学の学生などと多くの活動を行いました。主な活動は、住民が自由に集まり自分のペースでゆるく人とつながれる「CCTパーク」や、子どもたちが自由に遊べる「プレイパーク」、そして、より広い地域・世代間交流を目的として毎年開催している「CCTフリーマーケット」の企画・運営を実施しました。また、例年通り実施している地域イベントを継続するだけでなく「フリマミーティング」というコットンハーバーで暮らす人々と一緒にイベントを企画できる機会を設けることをはじめ、これらの活動を通じて非常に多くの出店者と来場者が集まり、地域コミュニティの活性化に寄与しました。さらに、多くの人に知ってもらうために公式Instagramを開設し広報活動も行いました。

来年度は、私たちの取り組みが地域の人々の繋がりがづくりのきっかけとなり、その繋がりが途絶えないよう、活動を継続する見込みです。また、公式SNS等による広報を通じて活動を周知し、より多くの人を地域コミュニティ形成に取り込むことを目指します。



## キャンパスの魅力を耕すプロジェクト Cultivating Attractions of Campus Project



キャンパスの土から新たな活動を掘り起こす。  
Digging up new activities from the soil of the campus.

- 学生：27名（青柳篤広，熊谷風音，寺澤慶，鈴木健弘，涌井隼斗，吉野公也，伊藤さい柚，岩佐達樹，小栗航太郎，川井慶，酒井大輝，清水琴美，鈴木日夏莉，土山実希，林紗矢佳，山田愛莉，佐々木海人，Adrian Wulitomo，河野青衣，川崎友裕，小林由和，嶋貫胡桃，説田遥，高田真優，原田翔牙，福元望月，棕梨絢果）
- 担当教員：藤原徹平
- 活動地域：常盤台（横浜国立大学キャンパス内）

コロナ禍により屋内に人々の居場所が失われたことを背景に、屋外空間での居場所づくりに可能性を見出しました。居場所をつくること、つかうことを通じて地域との交流を深めることを目的としています。昨年までの活動ではY-GSAのインディペンデントスタジオに参加して日干しレンガを作り、その技術を応用して版築により窯を制作しました。

春学期には、昨年作成した窯を中心とした居場所づくりの実践として窯を使った調理や窯を使ったプロダクト制作に向けて、大学の土を使って粘土づくりを行いました。秋学期は、キャンパスでの居場所づくりのキャンパス外での実践として、南区の横浜青年館を運営しているM-Baseと連携を始めました。第一回のワークショップでは、街の中の遊び場を子供と探し都市に居場所を拡大する方法を模索しました。

今後は横浜青年館の簡単なリノベーションを計画しています。来年度以降の計画に向けて第二回以降は、小学生との模型作りワークショップを通して青年館の使い方を考えており、模型を覗き込みながら横浜青年館の使い方を子供と相談しました。また、ワークショップでの子供との話し合いでは大学内の窯で鋳造を行い、自分たちで決めた部屋名のプレートを作成する案が出ました。昨年制作した窯の温度が最高で800°Cを超えることから、窯を使ってアルミの鋳造によりプレートを制作する方法を模索しています。

今後の活動では、M-baseと協力してキャンパス内での窯を使ったワークショップを企画してキャンパス内外の活動を横断的に展開していきます。また、窯を使ったプロダクト制作やイベントの企画も進めていきます。大学の土がコミュニティを育む土台となることに期待し、引き続き新たな活動を創出していきます。

## “縁食”の場を耕すプロジェクト Cultivating Spaces of “Enshoku” as a Community Hub



食卓を囲む“縁食”のコミュニティからキャンパスを地域に開かれた交流の場にしていきます！  
We will make our campus open for the local society from the "enshoku" community surrounding dining table.

- 学生：7名（飯島さら、池田和奏、石川はるか、小川奈津子、武井満里奈、田中暉暉、名古屋有紀）
- Y-GSAキッチンPJメンバー8名（相澤みなみ、飯塚友晟、植松駿、黒沼和宏、高塚惇矢、松永賢太、南菜侑、山田ひな）
- 担当教員：寺田真理子
- 活動地域：横浜市保土ヶ谷区
- サイト：[https://www.instagram.com/enshoku\\_ynu/](https://www.instagram.com/enshoku_ynu/)

Y-GSAキッチンPJから始まり、2024年度からは学部生メンバーを加えて地域課題実習の団体として活動をしています。パワープラントホールのキッチンを拠点として常盤台キャンパス及びその周辺地域で、孤食と共食のあいだである“縁食”のコミュニティから多様な人々に開かれた交流の場をつくることを目指します。

年間を通しての活動としては、学期中隔週火曜日の公開講座横浜建築都市学終了後にパワープラントホールにて、講師の先生方や学生、地域住民を交えた縁食会をキッチンPJと共同で開催しています。それに加えて、“縁食”の場を創出するための食に関わる各種のイベントを企画、開催しています。本年度は、11/24に旧二葉屋精肉店の空き店舗にて「建築学生と作るお菓子の家」を開催し、地域の子供40人弱が参加しました。また、2/6にはパワープラントホールにて、横国生にむけた活動の周知のためのポップコーンと映画の縁食会を企画しています。

本年度は当プロジェクトの初年度であったため、また地域課題実習としてのメンバーが学部一年生のみであったため、手探りでの運営となりました。来年度以降は、お菓子の家のイベントの恒例行事化、地域に向けた更なる縁食イベントの企画、当プロジェクトの更なる周知を目指して活動を発展させる予定です。また、現状では建築学科の学生のみしか参加していないため、学科外からのメンバーの獲得を目指します。

## ジビエ料理研究会 Gibier Cooking Research Project



伝統と革新が交わるジビエ文化の研究と実践による食の多様性の探究  
Study of gibier culture of tradition and innovation, and exploration of food diversity through practice.

- 学生：10名（垣内学、田室志織、上河内廉太郎、今津広大、伊藤麻衣、瀬戸愛華、柴山鈴菜、山崎心愛、地代所葉月、堀岡明凜）
- 担当教員：池島祥文
- 協力：南アルプスジビエ牧場、ALSOK千葉株式会社ジビエ工房茂原
- 活動地域：武蔵小杉（神奈川）、茂原（千葉）、川根本町（静岡）など
- サイト：<https://x.com/kawaneyokokoku>  
<https://www.instagram.com/kawaneyokokoku/>

当PJは前身である川根本町PJから着想を得て、獣害対策として捕獲された動物の命を無駄にせず、美味しくいただくことの大切さを広めるために活動しています。ジビエ料理の創作や文化祭・コンテストへの出品、関連イベントへの訪問を通じ、ジビエの魅力や意義を普及する方法を探っています。

テーマをジビエに変更したことで、料理の幅はもちろん、活動のフィールドも神奈川、東京、千葉、静岡、埼玉、長野と拡大し、多様な地域での研究や体験が行えました。ミーティングでは全員が企画書を出し合い方針を決め、日々の料理研究会では文化祭やコンテストに向けて、鹿肉や猪肉を使ったジビエ料理を試作しました。歴史的な視点から縄文時代の食文化を再現した料理など、食のルーツを探る試みも進めています。活動の一環として、文化祭では昨年度コンテストで入賞した鹿肉トルティーヤを販売し、2日間で350食を売り上げました。さらに、鹿肉カレーや鹿肉麻婆丼も提供し、多くのお客様にジビエの魅力を伝える機会となりました。また、外出見学会ではジビエ料理を提供する店舗を訪れたり、味噌専門店や酒蔵を見学したりと、日本の伝統的な食文化についても学びを深めています。遠方研修では、昨年度までフィールドにしていた川根本町で茶畑や観光資源を視察し、長野県の松本では和食展を見学し、和食の多様性を科学的視点から考察する機会を得ました。

今後は、これまでの研究成果を活かし、昨年同様、料理コンテストへの出品を計画しています。さらに、来年度には横浜国立大学付近に固定店舗を開く構想があり、ジビエ料理をより多くの人に届けるための新たな挑戦を進めていきます。



## はまみらいプロジェクト Hamamirai Project



### みらいへの架け橋を創る、ハマのオールラウンダー We are the all-rounder to create the bridge to the future of YOKOHAMA

- 学生：39名（安宅建人，加藤汐夏，久保智裕，濱田幸大，松田大生，キム・ミンヒ，眞田季依，藩楓由香，青木遥香，宇野滉真，小林蒼生，坂元夏希，高田祥英，高橋寿志，竹島優姫，恒住彩和子，波平恵采，林篤志，平井優作，福井智遥，有馬大貴，石川太陽，内田真帆，宇津木優太，大井星那，菊池優希，工藤愛華，是澤萌愛，佐藤稜祐，田野井聖，東方崇紘，中井寛一，一ツ木遊，古田慧太郎，細川はな，堀井優音，山門海叶，山本咲希，吉田瑞穂）
- 担当教員：吉田聡，野原卓，稲垣景子
- 連携・協力：UDC-SEA，横浜市，横浜みなと博物館，Yocco18，常盤台コミュニティハウス，幸海ヒーローズ，株式会社ELMA
- 活動地域：横浜の海沿い地域
- サイト：<https://note.com/hamamiraijp>，<https://hamamirai.localinfo.jp>

はまみらいプロジェクトは、海洋都市横浜のまちづくりに関するUDC-SEAの活動理念を元に創設されました。横浜をより良い都市にすることを目的とし、海沿い地域をフィールドに「防災」「まち歩き」「ブルーカーボン」の3チームに分かれ、フィールドについての研究やイベント企画、WebやSNS上での情報発信を行っています。

防災チームでは、11月に開催された開港5都市景観まちづくり会議2024横浜大会に出展し『防災すごろく』を通して防災意識を高めるための啓蒙活動をおこないました。また、有志で神奈川県立防災センターへ訪問し有事に役立つ知識を学んだほか、ソーシャルメディアで防災行動を呼びかける投稿をおこなうなど、発信活動にも力を注ぎました。

まち歩きチームでは、市営地下鉄・バス共通1日乗車券を使った「サイコロの旅」に挑戦。普段行かないような駅・バス停にも行くことになり、横浜の新しい魅力を発見しました。さらにその様子をnoteにまとめ、魅力の発信に繋げています。

ブルーカーボンチームでは、金沢区でコンブの養殖を通して活動されている方々と協力し、地球温暖化対策として注目されているブルーカーボンの周知に向けてさまざまな活動をおこないました。10月におこなわれた常盤祭では、他プロジェクトと共同で恒例のお茶やバスソルトの販売をおこないました。

今後は、チーム活動や個人の記事作成などで得られた経験や知識、人々とのつながりを生かして、メンバーのやりたいことを活動に取り入れ、横浜をより良い都市にできるよう活動していきます。



## オモロイ病院プロジェクト Interesting and Comfortable Hospital Project



### みんなで創る湘南の未来 Future in Shonan for everyone

- 学生：7名（足立真梨奈，上牧凧砂，笠原健矢，程輝，那須洋哉，藤井美聡，百本理絵）
- 担当教員：下野誠通，田中伸治，大沼雅也，田中稲子
- 連携・協力：湘南鎌倉総合病院様，鎌倉インターナショナルFC様，阪本綾様
- 活動地域：湘南アイパーク，鎌倉市，藤沢市，湘南鎌倉総合病院

藤沢市と鎌倉市の境に位置する新湘南共創キャンパスを拠点に、病院班・スポーツ班の2グループに分かれて活動しています。

病院班は、鎌倉市にある湘南鎌倉総合病院と連携し、様々な立場の人々にとっての病院のありかたを多角的に考え、新たな病院の創造を目指しています。総合病院主催のイベントである病院祭では、本プロジェクトとコラボした院内ツアーを実施しました。「みんなにやさしい病院」と題し、病院内の案内表示や多様な空間を見てまわり、ツアー後に病院空間の魅力と課題を考えるワークショップを行った結果、病院内の案内表示の分かりにくさに課題があることが分かりました。今後の活動では、喫緊の課題に焦点を当て、ハード・ソフトの両面から実践的に病院内のシステムを改善していきます。また、普段病院を利用することのない人々にとっても新たな魅力を持つ病院のありかたを提示していきます。

スポーツ班は、鎌倉インテルが掲げる「みんなのスタジアム構想」を軸に、人々が住んでいるだけで健康になる街づくりを考える考え、湘南地域の活性化を目指しています。湘南ウェルビーイングフェスタ開催された鎌倉インテル様によるワークショップに司会として参加し、ご来場いただいた皆様と、「地域やコミュニティとしてスタジアムをどのように活用できるか」「幼児や高齢者など普段スタジアムをあまり利用しない人々が身近なものとして感じられるようにするにはどうすべきか」など、我々が提案したテーマに沿ってディスカッションを展開しました。今後は企業の人間として、湘南地域のさらなる活性化に向け、鎌倉インテル様と協働する可能性が考えられます。



## 島プロジェクト in 鳥羽 ～現代世界の課題の探索と協力の実践～

### Island Project in Toba - Discovering the Challenges of the Modern World and Practicing Cooperation



三重県答志島をフィールドに  
島民と共に島の未来を創ります！

Creating the future of the island with residents  
～In Toshi, Mie prefecture～

- 学生：20名（徳永裕隆，浮田有我志，新津裕太，大湊颯太，長岡芽生，前田龍之介，田中恒暉，牧禮愛，福島彩，岡本航平，小松凌空，漆畑葵，原口蒔臣，篠村亮介，田中悠斗，福山実，長岡芽生，伊藤萌花，齋藤泰地，金本龍平）
- 担当教員：小林誉明
- 連携・協力：鳥羽市地域おこし協力隊 正林泰誠様，三好美咲様，大川亜佐子様，鳥羽市議会議員 濱口正久様，鳥羽市，その他答志島の住民の皆様
- 活動地域：三重県鳥羽市答志島
- サイト：[https://www.instagram.com/shimapj\\_toba](https://www.instagram.com/shimapj_toba)

当団体は三重県鳥羽市答志島を起点に離島の文化や生活を理解し、その過程の中で発見した強みを伸ばし弱みを補う工夫を地域の方々と共に探っていくというコンセプトの元、2022年度に設立されました。

現在は、答志島内にある集落の一つ和具地域において①学生拠点&合宿プロジェクト②ウッドデッキ制作プロジェクト③教育プロジェクト④関係構築プロジェクト⑤アートプロジェクト⑥魅力発信プロジェクト⑦空き家片付けプロジェクト⑧観光プロジェクトの8つを運営しています。メンバーそれぞれが、島のために自分に出来ることを模索しながら、10年20年と島と共に歩んでいける団体となることを目指しています。

- ①学生拠点&合宿：島の空き家を整備して学生の滞在場所を作り、また学生が島を訪れ地域社会に貢献できる場を作ります。
- ②ウッドデッキ：島の港のそばに屋外の交流拠点を作ります。
- ③教育：島の子供たちに新しいワクワクを与えます。
- ④関係構築：島プロが島の一員として活動できる基盤を作ります。
- ⑤アート：島の特性を生かした楽しみを作ります。
- ⑥魅力発信：横浜でも島への貢献をします。
- ⑦空き家片付け：島民のニーズに応え、空き家の可能性を拓きます。
- ⑧観光：島の日常を、非日常として体験できる場を作ります。

島の人々のためになること、自分たちがやりたいこと、それぞれを両立させながら、各プロジェクトの取り組みを発展させていきます。そして、メンバーが入れ替わってもなお安定して運営できる体制を整えます。



## 岩手らばーず Iwate-Lovers



岩手に飛び込み、岩手の想いと未来を届ける  
Diving into Iwate to convey Iwate's hopes and future

- 学生：27名（塚崎，前田，西條，清水，本郷，藤原，山田葉，會田，嶋田，佐々木，木内，後藤，永田，利守，加藤，奥村，高橋空，長江，谷崎，西，野川，山田光，高橋茉，松木，北條，湯川，宮澤）
- 担当教員：田中稲子
- 連携・協力：岩手県，岩泉町，葛巻町，二戸市，一戸町，雫石町，宮古市，レッドカーペットプロジェクト，他多くの岩手の皆様
- 活動地域：岩手県，東北地方
- サイト：<https://iwatekyouyoukaunt.wixite.com/iwatelovers-ynu/blog>

「岩手らばーず」は、私たち横浜の学生にとって文化的・地理的に大きく異なる岩手県や東北地方の様々なエリア、企業、団体を直接訪問し、岩手独自の取り組みや、横浜でも見られるような共通の地域問題を探求し理解することを目的とし、令和4年度に創設されました。このプロジェクトでは、教室での学びを越えた実際のフィールド体験を通じて、地域コミュニティとのつながりを深めています。今年度は、夏に加えて春の長期休暇を利用した三陸地域の訪問を行うなど、活動内容がより充実したものになっています。

主な活動として岩手県二戸地域・葛巻町・岩泉町等で開催され、その地域の特徴的な産業や観光スポットを体験・視察したり、取材を行ったりする「岩手 地域×キャリアデザインプログラム」への参加があります。また、プログラムとは別に、盛岡市や大船渡市、陸前高田市などで、訪問地域の方々に協力をいただきながら視察を行うこともあります。

今年度は、5月の清陵祭、11月の常盤祭に出店し、岩手県で製造販売されている椿茶の販売を行いました。また、10月のHAZAARのYNU BASE HAZAWA、2月の地域課題実習シンポジウム25での報告展示を行い、団体の活動内容や団員が今年度を通じて得た経験や学びを発信しました。

今後は岩手の農林水産業や経済、震災の実態や復興、椿茶についてなど、各々の興味関心のある分野に関して調べたり、実際に三陸沿岸地域を訪問したりするなどの活動を行い、学びを深めていきます。また、夏のプログラムや沿岸地域訪問で岩手に飛び込み、そこで得られた岩手の方々とのつながりを大切に、横浜から岩手の想いと未来を多くの人に届ける活動をしていきます。



## 都市の自然を楽しむライフスタイル Urban Nature-Enjoying Lifestyle



都市の自然を楽しむライフスタイルを構築し、  
横国の自然を活用する  
Build a lifestyle where we can enjoy  
the nature of the city and utilize the nature of YNU

- 学生：5名（唐木走生，荒木ななみ，加藤諒大，馬場瑛太，金本龍平）
- 担当教員：小池文人
- 連携・協力：
- 活動地域：横浜国立大学周辺
- サイト：<http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lifestyle/>

近年、都市の自然を保護する活動性の必要性が高まっている一方で自然に関心な増えている人が増えています。そこで、都市の中でも身近にある自然を楽しむことで環境保護の重要性を再認識し、持続可能な生活への意識を高めることが当プロジェクトの目的です。

今年度の活動では、主にYNUキャンパス内をフィールドとし、四季によって変わる自然を楽しみました。まず春には竹を利用した楽器やお皿などのモノづくりやメンマづくりをしました。また、旬であるヨモギやフキを使いヨモギ餅やきゃらぶきを作りました。秋にはどんぐりを粉にしてパンやクッキーを作ったり、自然薯を掘り、ケーキやお好み焼きを作ったりしました。収穫や調理だけでなく、それぞれの植物に関する勉強会を行いました。このようなアクティビティを通して、わたしたちなりの都市の自然を楽しむライフスタイルを構築できました。

今年度は、当プロジェクトのメンバーや知り合いだけで活動を行いましたが、今後は当プロジェクトをより多くの人に広め、人々のライフスタイルを変えるきっかけづくりを行いたいです。



## New-New Town プロジェクト New-New Town Project



まちにとびだす大学生のことを知ってもらおう！  
Meet the YNU students bringing energy  
and connections to the community！

- 学生：14名（森田彩日，林澄漢，水城健太，赤坂晃太郎，出射みらい，齊藤菜月，岡本樹，大竹紗英，小林舞菜，関野佐知，高田咲弥，高田野々花，中島しゅう，松倉遥香）
- 担当教員：野原卓
- 連携・協力：みなまきラボ，万騎が原中央商店街，(株)オンデザインパートナーズ，横浜市・相鉄グループ（相鉄いずみ野線 次代のまちづくり）
- 活動地域：相鉄線二俣川駅から相鉄いずみ野線南万騎が原駅周辺
- サイト：[https://www.instagram.com/ynu\\_newnewtown](https://www.instagram.com/ynu_newnewtown)  
<https://ynunewnewtown.wixsite.com/website>

相鉄線二俣川駅～南万騎が原駅周辺エリアは、戦後に大規模開発された人気の郊外住宅地でしたが、少子高齢化や人口減少、駅前開発などにより以前の活気を失いつつあります。そこで私たちは、大学生ならではの視点を活かして、かつてNew Townと呼ばれた郊外住宅地に新たな価値を見出し、多世代がいきいきと暮らし続けられる魅力的な「New-New Town」の実現を目指して活動しています。

今年度は、よそから来た大学生が地域の人を巻き込んで活動することの面白さを見つめ直し、それを地域の人にもっと知ってもらいたいという思いから、NNTスタジオとNNTアーカイブという2企画を進めてきました。NNTスタジオでは「大学生の顔が見えるイベント」を目指し、メンバーそれぞれの得意や興味を活かしたテーマのスタジオを毎月みなまきラボにて開催しました。毎回、常連さんを含む約20人に参加していただき、多世代交流の場をつくることができました。さらに、交流を重ねた地域の方にお声がけて、スタジオでのコラボも実現しました。NNTアーカイブでは、受け継がれずに眠っていたPJの過去資料を掘り起こし、9年間の地域活動を振り返ることで、PJの軸を見つめ直そうとしました。また、アーカイブをまとめた展示会を開催し、地域の人にNNTPJについて知ってもらう機会を生み出しました。

今年度は高い頻度で現地に足を運んで地域の方々と交流を重ねることにより、昨年度に構築した人のつながりのネットワークを深めつつ、PJについて知ってもらうことができました。今後も地域の方々との縁を大切にしながら、大学生ならではの視点を活かしたまちづくり実践を進めていきたいと思っています。

## 転倒しない街共創ラボ「こらぼ」 Not Falling Down City Co-Creation Lab



転ばない街を「技術」「対話」「運動」で現実にも！  
何歳でも転倒知らずの世の中へ  
Making Not Falling Down City a Reality  
through Technology, Discussion, and Exercise!  
Toward a world without falls at any age!

- 学生：6名（大谷紗慧，小川康太，高須賀颯太，久保春奈，丹羽里歩子，吉崎健人）
- 担当教員：島圭介，大沼雅也，他BSD研究拠点職員
- 連携・協力：BSD研究拠点
- 活動地域：常盤台ケアプラザ，左近山ケアプラザ
- サイト：<https://bsd.ynu.ac.jp/index.html>

転倒しない街共創ラボ「こらぼ」は、高齢者の転倒リスク計測技術の社会実装を通じて、誰もが転倒を恐れることなく健康に過ごせる街を実現することを目的として2022年度に創設されたプロジェクトです。

2024年度の活動として、次の2つの取り組みを実施しました。まず、昨年度に検討した「地域通貨」を活用した取り組みについて、さらに綿密に計画を練り、横浜銀行の方々への企画提案と相鉄の方々を交えた意見交換を行いました。その中で、「立位年齢の計測をどれだけ継続的に地域の人に行ってもらえる体制を作れるか」という課題が新たに浮かび上がりました。この課題に対し、地域住民が継続的に測定に参加できる仕組みの必要性を認識し、今後の活動に活かしていくこととなりました。また、昨年度に引き続き、転倒リスク計測技術を広く知ってもらう機会としてYOXO FESTIVALに出展しました。今年は来場者数が昨年より増加し、幅広い年代の方々に取り組みを知ってもらうことができました。また、計測結果を元に改善を意識してもらおうサイクルの重要性を伝える企画を実施し、継続的な関心を持ってもらうための施策として公式LINEの運用を開始しました。これにより、イベント後も情報提供を行い、測定の継続を促す仕組みを構築しました。

今後の展望として、まず2025年3月に南万騎が原駅で開催される「みなまきひな祭り」へ出展し、さらなる周知活動を行います。また、来年度以降は、常盤台ケアプラザをはじめとする地域のケアプラザを中心に、定期的なイベントを運営する体制を整えることで、継続的な計測機会を提供し、地域住民の健康維持を支援していくことを目指します。

今後も市民の皆さまと協力しながら、転倒リスク計測技術の普及と活用を進め、健康で安心して暮らせる街づくりを実現していきます。

## おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト Ota Creative Town Research Project



学生×職人が生み出す、新しい地域のかたち  
A new form of community  
Created by students and artisans

- 学生：9名（三吉，東，安井，茅嶋，都筑，森田，宮沢，芝上，横田）
- 担当教員：野原卓
- 連携・協力：大田区観光協会，工和会協同組合，東京都立大学
- 活動地域：大田区武蔵新田，下丸子
- サイト：<https://oct-c.com/>  
<https://o-2.jp/mono/oof2024/>

東京都大田区下丸子・矢口地区は、都内でも有数の「ものづくりのまち」として知られており、住宅と町工場が混在する特徴的なエリアです。しかし、近年は町工場の減少や地域との関係性の希薄化が進んでおり、地域のものづくり文化の継承が課題となっています。本プロジェクトでは、公民学連携のもと、町工場の魅力を発信し、地域住民との交流を深めることを目的としています。

今年の活動は大きく以下の2つの取り組みを中心に実施しました。  
オープンファクトリー（OOF）学生企画

- 目的：ものづくりの職人に触れる機会を提供し、地域の町工場の存在を再認識してもらう
- 活動内容：大田区の職人さんから大田の魅力や職人の素顔が分かる企画展示
- 実施場所：工和会館

OOF 磨き上げプロジェクト

- 目的：町工場の魅力をより深く伝えるため、学生の視点から工場の強みを発信する
- 活動内容：町工場へのインタビューとパネル制作体験イベントの企画・実施
- 実施場所：工和会館及び各工場

これらの活動を通じて、地域住民や訪問者に町工場の存在意義を伝え、工場の方々との新たな交流の場を創出しました。

今後は、磨き上げプロジェクトを通じて、さらなる魅力の発掘・発信に取り組みます。また、新たに参画する大学の増加により、活動の幅を広げ、より多くの地域や工場に貢献していきます。

## 伝統茅葺き民家「花三郎の家」継承プロジェクト Hanasaburo's House, a Japanese Thatched House Succession Project



### 伝統的な古民家「花三郎の家」を保存、継承し、 地域に開いていく Preserving and passing on a traditional old house and opening them to the community

- 学生：履修者6名（伊藤航晴、大貝燎平、籠島綾、佐武真之介、橋隼杜、松井日咲、その他参加者数名）
- 担当教員：大野智、守田正志、菅野裕子
- 連携・協力：花三郎の家の方々
- 活動地域：花三郎の家（横浜市保土ヶ谷区釜台町31）

横浜国立大学の西門から徒歩5分ほどのところに古民家「花三郎の家」があります。私たちは花三郎の家を保存、継承し、地域拠点として外に開いていくことを目的に活動しています。多くの緑に囲まれ、外からは内部の様子が分かりませんが、敷地内には四季折々の自然の美しさや、歴史的に価値ある建物が存在します。それらを外部の人にも知ってもらうことが保存、継承の第一歩であると考え、外部へ魅力を発信するための手法を模索しています。

4月から7月は敷地の草むしりと調査を行いました。大野先生の説明を聞いたり図面に描いたりして、古民家や植生の特徴を学びました。8月と9月は敷地内でとれる竹を利用して流しそうめんを行いました。8月に試験的にやり、9月に本格実施しました。この企画を通して古来から親しまれてきた文化を体験すると同時に、敷地にある竹の有用性を学びました。10月から現在に至るまでは敷地内の道普請を行っています。これから地域に開いていくにあたり道の整備が必要であり、また、家主の鈴木さんから雑草を生えにくくしたいというご要望があったので、解決策を模索し、実際に道普請を進めています。敷地内の竹をチップ状に粉碎し撒くことで雑草対策としました。道の脇にはスタディを重ねて考案した柵を作成中です。

道の普請を終えたら、少しずつ外部の人に開きながら、古民家の修繕を進めていこうと考えております。現状、プロジェクトメンバー以外の人たちは古民家に立ち入ることができていないので、まずは大学で興味を持ってくれた人や留学生などを呼んで、ささやかなイベントをする方針です。また、本格的に民家内の修繕に取り掛かります。障子を直してほしいというご要望があったので、障子を自分たちで直すことから始めていこうと考えています。

## データで捉える地域課題・地域経済 Analyzing Regional Issues and Economies Based on Data



### データを用いて経済学の視点から 社会課題や地域課題を分析 Using data to analyze social and regional issues from an economics perspective

- 学生：27名
- 担当教員：池島祥文、居城塚
- 連携・協力：横浜市政策局 関口昌幸様
- 活動地域：横浜市、神奈川県

当プロジェクトでは、「池島グループ」と「居城塚グループ」の2グループに分かれて、各地域との連携を行いながらプロジェクトを運営しています。データを用いながら多様な社会課題や地域課題をテーマとした研究が行われており、様々な視点から地域を分析しています。またそれらの研究内容を経済学部の報告会の中で共有し、各グループ研究を進めています。

池島グループでは、神奈川県箱根町を対象に、観光地の持続可能性を考えるうえで、重要な観光公害の実態とその対策面を検討してきました。コロナ禍以降、世界中の観光地において、多数の観光客が押し寄せることによって生じる弊害が大きな問題となっています。また、環境への配慮として、飲食店やレストラン等での食品廃棄の問題も指摘されています。これらの課題が箱根町ではどのように生じているのかについて現地調査を実施してきました。

居城塚グループでは各個人に分かれて「再開発」「まつり・イベント」「鉄道」「商店街」といった様々な社会課題を神奈川県をはじめとして北は北海道から南は沖縄まで日本全国の各地域に着目し、「産業連関表の作成」「アンケート調査」「データを用いた経済分析」などを駆使して研究しています。また、毎週グループ内で研究報告を行い各々の研究についてアドバイスや考えを共有し合い、より良い研究内容になるように考えを深めています。

今後はより一層、データを用いながら地域をマクロとミクロ両方の面から分析をして、さらに研究を深めることで地域の助けになる、地域について知ることができる研究を進めていきます。

## サコロボ Sacolabo



### 国大生と左近山のコラボでミライをデザインします。 design the future in collaboration with Sakon-yama community.

- 学生：19名（青柳篤広，岩本瑠子，大西創，岡宮愛，片桐理央奈，川合由蘭，笹森遙，佐藤咲希，佐藤信哉，澤口鈴穂，高橋夢菜，竹中美裕，多田響，寺澤慶，寺田優衣，富田涼太，根本莉子，松原稜，山本莞太）
- 担当教員：藤岡泰寛
- 連携・協力：NPO法人オールさこんやま（連携），左近山ショッピングセンター・ケアプラザ（企画アドバイス等）
- 活動地域：左近山団地（横浜市旭区）
- SNS：X（旧Twitter）ID:@sacolabo\_danchi  
Instagram ID:@sacolabo.danchi2022\_  
facebook ID:@sacolabo

相鉄線二俣川駅からバスで約15分の場所に広がる「左近山団地」。商店街のお祭りや小学生向けの地域イベントが毎月開催されるなど、地域活動の活発さが魅力な一方、47%にもぼる高齢化率などといった課題も抱えています。そんな左近山の地域活動をさらに盛り上げつつ教育・福祉・防災などに関するイベントを企画し、小さいお子さんから高齢者の方まで、幅広い世代の住民の方々と「コラボ」しながら団地の魅力向上に取り組んでいます。

今年度は、団地内部に新たなエンターテインメントを生み出すべく、映画の自主上映を行う「団地映画祭」や、地域のお祭りで手作りの窯でピザを焼き、非常時の炊き出しにも役立つよう訓練も行う「ピザ窯ワークショップ」、小・中学生と交流しつつ勉強など様々な相談にのり教育環境の充実を図る「さくら教室」等を行いました。また、地域主催の小学生向けイベント「日曜ほっと」にも参画し、ハロウィンやクリスマスなどの企画を実施しました。団地に実際に居住して活動している学生もあり、外から左近山に通っている学生とともに内外両方の視点から地域課題を見つけ、アイデアを生み出し、実際の活動に活かしています。また似顔絵や移動式サウナの設計など、「得意」としていることを左近山にメンバーが自発的に持ち込み、地域に還元しているのも特徴です。

地域活動の活発さや、豊かな屋外空間といった左近山の魅力を活かしたイベントを開催し、団地内外のさらに多くの人が地域の魅力に気づき、愛着を抱くようになることを目指しています。また、地域の方々と交流しながらイベントを楽しむことで、学生自身も左近山を「帰ってきたい居場所」と思えるようになるような活動を心がけ、左近山団地の継続的な発展に貢献していきます。

## 里山コミュニティデザイン Satoyama Community Design



### 里山コミュニティデザイン

### 里地里山を拠点に、 人間と生物にとってより心地よい居場所の創造 Creation of more comfortable location of humans and other living creatures based on satochi-satoyama

- 学生：21名（久保蒼生，千葉美衣菜，黒羽りほ，佐藤愛弥，武内那岐，原田悠妃，福田優菜，戸澤玄，山内葵，浜野晶，長沼春和，竹永怜生，能城心太郎，八坂麟太郎，柴崎創芽，中館美卯，川戸すず，佐藤星来，吉田楓音，井谷莉子，中村心寧）
- 担当教員：原口健一，佐藤峰，倉田薫子，河内啓成，高芝麻子
- 活動地域：横浜国立大学
- サイト：<https://satoyama-esd.ynu.ac.jp/?p=465>

本プロジェクトは、学内に広がる里地里山という貴重な自然資源を最大限に活用し、学生や地域の人々がともに自然と向き合う居場所を創出することを目指しています。

今年度は「横国を食す。」を活動指針として、キャンパス内に点在する自然資源を「食べる」という視点で掘り下げました。

プロジェクト内で行った「よここく散歩」では、キャンパス内に生育する植物を実際に観察し、ツブキやドクダミなどの資源を発見しました。また、流しそうめんを企画し、竹を利用した環境に優しい道具の重要性を学びながら、地域の自然とのつながりを感じる時間を提供しました。

6月には野村不動産イベントへの出展を行い、竹細工ワークショップを開催しました。大学内の竹を使った箸作りを行い、自然素材の活用方法を伝えました。

さらに、10月には里山ESD BASEが主催する「横国の森ワークショップ祭」の学生企画を担当し、都市と里山の共存に関するカードゲームや、横国内の植物を調査して図鑑作成を行う活動を提供しました。

今後の活動では、廃材を利用した活動を行っていきたく考えています。また、来年度は「横国の森ワークショップ祭」の主催を担う予定です。それに向けて、新しいコンテンツの開発をしていきます。そして、地域との連携を強化するために、学外でのコミュニティ作りを検討しています。これにより、活動の幅を広げ、より多くの人々が自然と向き合うきっかけを提供したいと考えています。興味のある方はぜひ参加してください。



## ローカルなマテリアルのデザイン Local Material Design



家具のデザイン・制作を通して、  
里山の広葉樹を活用する方法を研究しています。  
Through furniture design and production,  
we are researching ways  
to utilize *satoyama* broadleaf tree.

■学生：14名（稲永拓真、岡田秀永、鈴木拓弥、盧柱原、梅根悟嗣、追分美希、是村颯太、豊田亜美、岩屋亜海、藍郷浩史郎、稲津優花、原田翔牙、菱川大貴、橋本健人）

■担当教員：志村真紀

■連携・協力：産学・地域連携課 地域連携係、ミタケ総業、関鉄工所、おたくりクリエイティブタウンセンター

■活動地域：羽沢サテライトキャンパス

■サイト：[https://www.instagram.com/local\\_na\\_material\\_2024](https://www.instagram.com/local_na_material_2024)

かつて建材や燃料として適切に利用されることで里山における循環の中心を担っていた広葉樹ですが、森の資源の需要が少ない現代では里山の広葉樹が放置されている現状があります。針葉樹は幹が真っ直ぐで、比較的軽くて強く、建築用部材として使いやすいですが、広葉樹は樹種や各樹木で一つ一つ形が異なり、材質が硬いうえに質量が大きいため加工がしにくいです。そこで当プロジェクトでは、広葉樹の有効活用の方法を検討・模索してきました。

具体的な活動としては昨年度に引き続き広葉樹を利用した家具の設計、製作を行いました。羽沢サテライトキャンパスでの使用を考えながら形状を考え、天板の素材にまでこだわりました。製材された板材を学内でカット、やすり掛け、コーティングし、塗装した脚部と接合することで大机にスツール、ベンチが完成しました。そして10月に開催されたオープニングセレモニーにも参加させていただきました。また製作に関わってくださった製材所や鉄工所で植樹会やワークショップへの参加、見学へ行かせていただき理解を深めることができました。施設オープン後は、家具やサテライトキャンパスの宣伝を目的としたSNS活動やポスターの作成・展示にも取り組みました。1月には大邱大学との交流会に参加し、他国の学生と活動を共有し合うことができ非常に有意義な時間となりました。

地域課題実習としては今年度でプロジェクトは終了となりますが、公式Instagramの運営や制作した家具の定期メンテナンスを行います。



## まちに開いた交流の場のデザイン — 住宅地の価値を上げる — The Design of an Open Community Space in “CASACO”



CASACOでの人と場を活かした活動を通じた  
多世代・多文化交流

Multigenerational and multicultural exchange through  
activities utilizing people and places at CASACO

■学生：16名（藤澤、石津、伊藤、今野、室本、阿曾、紺野、地代所、村上、土山、飯島、長倉、矢部、荒井、菊池、篠村）

■担当教員：江口亨

■連携・協力：CoC

■活動地域：神奈川県横浜市西区東ヶ丘23-1 CASACO

“CASACO”という留学生のシェアハウスを拠点に東ヶ丘というまちに開いた場をつくる活動をしています。CASACOの一階はフリースペースとして様々なイベントが開催されるほか、留学生のリビングとして食を通じた交流を行っています。横国大学生活動団体であるYOKOCOはイベント参加やDIYなどを通じて地域交流とCASACOに住まう留学生との国際交流を目的に活動しています。

2024年度の活動として「小学生夏休み宿題お助け隊」「文化大祭」「キャンドルナイト」「スロープづくり」「夜ご飯づくり」を行いました。「宿題お助け隊」では近隣の小学校の夏休みに合わせて宿題をお手伝いしかき氷を提供しました。「文化大祭」は今年度初めて行ったイベントですが学生がそれぞれ好きなことを伝えるためワークショップやフリーマーケットを行いました。毎年恒例の「キャンドルナイト」では今年度はCoCからYOKOCOに運営を任せいただき一日を通じたイベントの運営を行いました。「スロープづくり」では車いすの方がCASACO内に入れるようにスロープを設計から製作まで学生で行いました。そして週に1度学生メンバーがCASACOで留学生の夜ご飯づくりを行い増した。これにより留学生との交流がより日常的になり知らなかった異文化や日本の文化にも触れることができました。

今後は「夜ご飯づくり」の継続、「キャンドルナイト」等の恒例イベントの開催を行います。加えて「文化大祭」のようなYOKOCO主催のイベントも定期的開催する予定です。より学生主体でイベントを運営していくことで地域の方と学生の交流機会を増やし住宅街であるからこそ多世代・多文化交流を目指します。

## みなとまちプロジェクト The Port City Project



### 清水の歴史文化に関わる地域資源のブランディング Branding Shimizu's history with local resources

- 学生：15名（山口大輔、渡邊武瑠、岡田秀永、中田宙希、佐賀淳基、田中雅天、松本真羽、矢野誠悟、阿久澤清華、桜井明日花、杉多純弥、関琉介、中根遼、宮内周之介、宮城光）
- 担当教員：志村真紀
- 連携・協力：常葉大学、東京大学、九州大学、茨城大学、静岡理科大学、静岡市経済局海洋文化都市推進本部、静岡県清水港管理局、ぬくもり園、次郎長と港を活かした清水活性化協議会、伊豆石文化探究会
- 活動地域：静岡県静岡市清水区
- サイト：<https://www.ynu-minatomachipj.com/>

みなとまちプロジェクトは、横浜と同じ港町である静岡市清水区の歴史文化に関わる地域資源をブランディングするために活動を行っているプロジェクトです。清水は横浜と同じ国際貿易港であり、近年ではクルーズ船の寄港地にも選ばれ、国内外から多くの観光客が来ていますが、清水を經由して他所へ観光に行く人が多い状況があります。また、清水港の発展に寄与した地域資源として、お茶、伊豆石、清水次郎長、倉庫群、港湾線、富士山をブランディング・エッセンスとして位置づけ、横浜の学生という外部の視点から清水のまちを盛り上げるべく、まちづくり活動を行っています。

昨年度に引き続き今年度も5月・8月・12月に清水への訪問を行い、市販のお茶と比べ香り・味ともに格別なものである手もみ茶の製茶作業の体験や清水のまち歩きを行うことによって清水のまちに対するメンバーの理解を深めました。11月の常盤祭では昨年度より行っていた手もみ茶の提供サービスの拡充を行い、茶葉だけでなく清水というまちの魅力についても広く発信を行いました。また、1月に行われた大邱大学との交流発表会においても学生が製茶した手もみ茶の提供を行ったほか、清水というまちについてブランディング・エッセンスを活かした情報発信を行いました。

今後の展望としては引き続き清水の地域資源について内外に発信していくのみならず、清水のまちにおける課題について行政や地域の人との連携を行いつつ、当プロジェクトの活動を通し学生が主体となってこれを解決できるよう、より一層取り組んでまいります。

## ワダヨコ Wadayoko



### 和田町で、人と人との、今と未来との架け橋になる Become a bridge between people, now and in the future in Wada area

- 学生：34名（有倉直哉、ソジファン、粕谷昌貴、堀雅也、伊藤幸哉、大野倫、河崎蒼依、後藤陸、佐藤めぐみ、秀島美咲、山下虎太郎、山本純也、海野萌花、平美優、中原昴登、山崎優子、池田萌夏、乾大和、瀧本早蘭、星野良太、河口紗香、八坂麟太郎、三村涼葉、佐々木歩夢、大塚朝陽、淡路和寛、石川礼人、小熊遥太、亀井蒼馬、齋藤稜、佐藤翔太、枇杷橋希実、山田琥汰、山納彩、横山天星、鈴木彩弓）
- 担当教員：尹莊植、野原卓
- 連携・協力：和田西部町内会、和田町商店街、和田西部第一子供会、NPO法人居場所そら
- 活動地域：横浜市保土ヶ谷区和田周辺
- サイト：<https://wadayoko2010.com/>

2010年から続く、現在の地域課題実習の中で2番目に古い学生団体です。当初は和田町（横浜市保土ヶ谷区和田周辺）の拠点である町内会館を1年間かけてリノベーションするために成立しましたが、活動の中で次第に街の人との交流が増え、和田町の団体と協力してイベントを企画・運営するようになりました。今では和田町の魅力を見つけて周知しながら、学生と町の人たちが互いに支えあう地域をつくることを目的として活動しています。

和田町の公園で、子供たちに楽しみながら防災について学んでもらう防災フェアや、各出店者が腕によりをかけた品々を持ち寄り販売するべっぴんマーケットをはじめとした季節のお祭りや行事など、様々なイベントの主催や共催をしました。今年度は幅広い学部・学科の学生が参画したことで、多角的な視点で学生ならではの新しい企画を提案したり、若い力で運営に大きく貢献することができたと実感しています。ワダヨコ、町内会、商店街、大学教員が集う定例会議「和田町タウンマネジメント協議会」にも毎月参加し、組織を横断した情報共有や、協力の活性化のサポートに努めました。また、和田町で親しまれ続けるゆるキャラ「和田丸」のプロモーターとして、イベントへの出演や、グッズのデザインから販売までを行いました。

将来に繋げていく力のある学生団体として、これらを楽しみにしている人たちのために長きに渡って大切に受け継いでいこうと思います。そして、今年度新たに繋がることのできた団体と、来年度以降も積極的に関わりながら、和田町周辺での活動の領域をさらに広げつつ、より密接な交流をしていきたいと考えています。



## ハマの屋台プロジェクト YNU Wagon Project



### 屋台とともに、まちを育てる。 Nurturing the town along with Mobile Wagon

- 学生：16名（奥村真妃，梶遼太郎，大木諒音，佐藤那津，田中もも，樫本和奏，小藪有紗，後藤理紗，佐藤美宇，西村心，船田果鈴，石井海己，坂本早翼，川島大輝，田川葉奈，中原湊透）
- 担当教員：野原卓
- 連携・協力：常盤台地区連合町内会，住好自治会
- 活動地域：常盤台地区
- サイト：<https://hamanoyatai.com/>

ハマの屋台プロジェクトでは、まちの賑わいを生み出すツール「ほどわごん」の提案以来、活動地域の需要や状況に合わせた移動式屋台の製作と運用を行ってきました。

今年度は、主に常盤台地区での活動となりました。これまで7年程度運用してきた「ほどわごん3号機」の老朽化に伴い、新たな屋台を製作に取り組みました。町内会をはじめとする地域住民の方々との協働を深めるため、「地域に欲しい屋台とはどのようなものか」ということから考えていくワークショップを開催しながら地域と一緒に構想・設計・製作を行いました。

また、今年度も納涼盆踊りや羽沢まつりへの出展を通じて、自治会の皆様との連携を深めるとともに、子供たちに楽しんでもらうことができました。そして、11月のワイワイ文化祭りでは8月から11月まで6回のワークショップを開催しながら制作してきた新たな屋台のお披露目もかねてドリンクスタンドを展開し、地域の方々に楽しんでいただきました。

今後は、今年度製作した新たな屋台の活用方法をさらに広げていくことを目指します。屋台の柔軟な活用方法を模索し、地域のイベントだけでなく、日常的な場づくりのツールとしての可能性を探求していきます。また、現在の屋台はまだ基本の機能のみの状態に近い状態のため、アタッチメントの作成などを地域と一緒に進めていきたいと考えています。さらに、屋台の運用においては、学生と地域が協働して屋台の管理・運営を行える体制を構築することも重要な課題です。今後の活動を通じて、より多くの人々にとって「居場所」となる屋台の可能性を追求していきたいと考えています。



## 「南米農村部での学びを生かした横浜『共生』プロジェクト」（えんぴつルーム） Yokohama Intercultural Community Building Project (Pencil Room) Using Learning from Rural South America



### 夢中になれる場、笹山子どもの居場所 Sasayama Children's Place, a place where they can get into something.

- 学生：14名（本藤理子，杉江つくし，入江ひなた，片桐綾乃，根岸佳奈，奥山琴音，湯本莉衣，北村あすか，森結希乃，重村ななは，中谷笑理，中島ちなつ，橋本真一，橋口奈奈緒）
- 担当教員：藤掛洋子
- 連携・協力：認定特活ミタイ・ミタクニヤ子ども基金，ベネッセ子ども基金，かなとも基金，橋ライオンズクラブ，横浜保土ヶ谷ライオンズクラブ，横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会，県営笹山団地自治会，笹山地区社会福祉協議会，神奈川県，渡邊敏彦様，日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社，株式会社ジャンボリア，日本ウイナー株式会社，保土ヶ谷区子ども福祉支援課，笹山保育園，上菅田地域プラザ
- 活動地域：神奈川県宮住宅「笹山団地」
- サイト：<https://www.facebook.com/ynu.mitaimitakunai>

本活動は、2020年から認定NPO法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金（以下、ミタイ基金）と横浜国立大学の地域課題実習、上菅田地域の各アクターと連携して実施しています。

活動目的は、複数のアクターが緩やかに連携することから、地域の子どもたちが集まる空間を作り、不登校や外国にルーツを持つ子どもたちも含め、子どもたちがありのままの自分になれる場所を提供することです。

笹山団地102号室を毎週土曜日10-12時で開放し、笹山団地や近隣に住む子どもたち（不登校や外国にルーツを持つ子どもも含む）に対し、①横浜国立大学学生他が食事（お弁当や軽食）を提供します。（月1回）②大学生ボランティアが宿題や自主学習教材などの子どもたちの希望する学習支援を行います。

③勉強以外にも遊びや自分達のやりたいことを行うことを支援します。④大学生スタッフの大学での学びを生かし、多文化共生や季節のイベントのイベント・ワークショップ開催を行います。今年度は、団地のプールを活用した水遊びイベント、落ち葉拾いとそれを使った工作企画など、地域活性化も兼ねたイベントを新たに開催しました。更に、ヒアリングやアンケート調査、ワークショップを通して団地の実態を把握する取り組みを行いました。また、外国にルーツを持つ子どもに向けたハラール食の献立をお弁当に取り入れました。

昨年度参加していた外国にルーツを持つ子どもたちは、現在も参加を継続してくれています。来年度は現状の維持を目指しつつ、他の外国籍の子どもや日本人の団地住民など、更に多様な立場の子どもが参加しやすい場を作っていきたいです。

## Yokohama Univer-City Yokohama Univer-City



### “つながり”を生み出す空間づくり Creating Spaces, Create Connections

- 学生：12名（富樫悠也，日向野温，廣田慎一郎，中原船登，佐藤さくら，川口南，竹永怜生，松尾侑真，八坂麟太郎，柳澤美那，湯本莉衣，大路萌子）
- 担当教員：三浦倫平
- 連携・協力：共育会(朝比奈信弘)，短歌サークルきりん
- 活動地域：常盤台キャンパスおよび周辺施設
- サイト：<https://104scape.wixsite.com/yokohama-univer-city>

YUCは「大学をまちに開く」をコンセプトに始まった学生プロジェクトです。今年度は都市科学部講義棟（S2-2）裏にある104ura【トシウラ】と周辺の空間を主な活動拠点とし、新たなつながりの創出や空間デザインの提案、地域との連携に挑戦しました。

#### 〈都市科学講義棟エントランスデザイン実証実験〉

都市科学講義棟利用者に向けたアンケートを実施し、エントランスに机やベンチ以外の「座る機能を持つもの」を設置することで、親しみを持てるようなキャンパス空間の演出に取り組みました。

#### 〈小学生のためのオープンキャンパス〉

大学周辺地域の小学生と保護者を対象に、横浜国立大学及び大学という教育機関の理解を深めて地域との結びつきを強めるための大学紹介とキャンパスツアー、ワークショップを行いました。

#### 〈2024常盤祭出展〉

2024常盤祭企画である地域課題実習有志の「森のマルシェよここく」へ参加しました。YUCは本棚やレジャーシートを設置し、簡易的な滞留空間を作りました。

#### 〈都市短歌会（地域課題実習×短歌サークルきりん）〉

短歌を通して学生間の新たな交流を生み出したいというメンバーの想いから実現した企画です。考案した短歌の一部を持ち寄り、参加者の中で様々な短歌が生まれました。

次年度以降は104uraの空間でできることの可能性を拡げつつ、地域も含めたより多様なつながりの創出を目的としたイベントを現在企画中です。イベントを通して安心感の得られる場の提供や偶発的な交流機会の創出に取り組むことを考えています。

## Topic

### 韓国・大邱大学との発表・交流会

日本と同様に韓国も、地方の若者流出や高齢化・少子化が進んでおり、大邱大学も地域連携の取組みを模索しています。

2024年1月、大邱大学の教員・学生34名が横浜国立大学を訪問し、地域交流科目の仕組みや地域課題実習の事例についてを紹介しました。

その後、同年9月に横国の教員3名・学生12名が大邱大学を訪れ、学生同士は発表会、教員同士や教育プログラムに関する質疑応答を実施しました。



2025年1月には、大邱大学の教員・学生計44名が再来訪し、活動発表や昼食交流が行われました。左近山団地訪問では、サコラボの学生と地域住民の間に、サコラボの学生や活動が地域に受けられている様子がよくわかり、大邱大学の学生からは「横国の学生たちが、いかに地域のことを考えているか、よくわかった。」との感想が寄せられました。

今後も交流を継続し、相互の学びを深めていきます。



シンポジウムの様子は、地域実践教育研究センターのYouTubeチャンネルにおいてアーカイブ動画となっています。

## 地域実践アワード

地域実践アワードは、毎年年度末に開催される「地域連携シンポジウム」の第1部において、地域課題実習の各プロジェクトの発表を踏まえて、シンポジウムにご参加・ご視聴頂いた皆様により投票を行い、賞を創出しているものです。

- ・MVP、準 MVP：総合投票サイトから投票頂いた「全体の総数」
- ・校友会賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生以外」の総数
- ・学生賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生」による総数
- ・地域賞：地域賞限定の投票サイトを通じた「総数および評価点」

### Award

- MVP・学生賞 -

島プロジェクト in 鳥羽

- 準 MVP・校友会賞 -

アグリッジプロジェクト

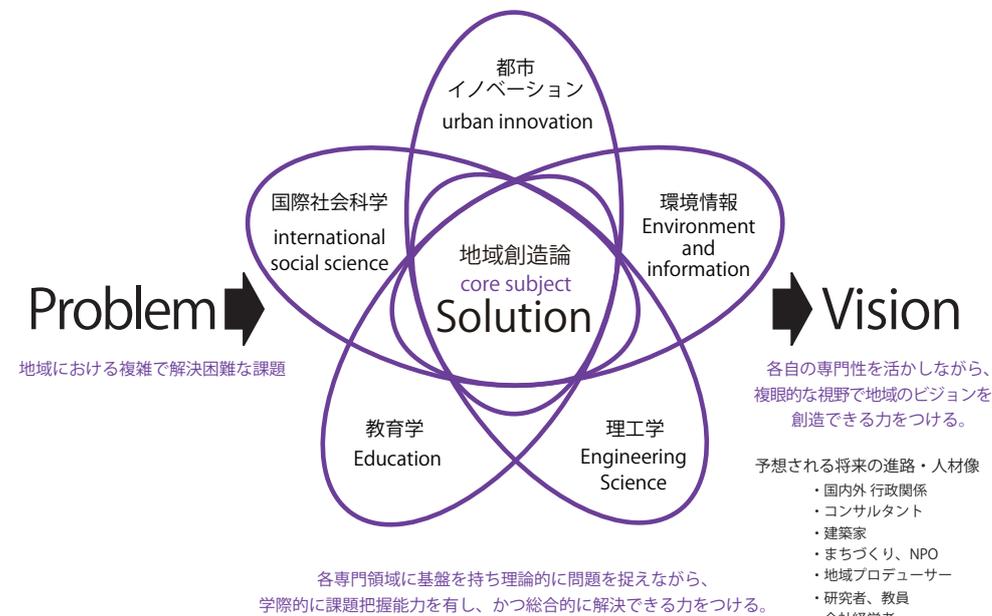
- 地域賞 -

NEW - NEW TOWN

## ■ 地域創造科目について / About this program

大学院生を対象とした副専攻プログラム「地域創造科目」は、「複雑で解決困難な地域課題を題材に、各専門分野の活かし方を発見し開拓するプログラム」です。2012年度から開講しました。

Towards complex, intractable community issues, this program takes a theoretical approach from the individual fields of expertise, and is a sophisticated educational program which aims to produce individuals who possess the ability to appraise issues from an interdisciplinary approach and propose comprehensive solutions.



## ■ コア科目：地域創造論 / Globalized Local Studies テーマ：「2050年までをシミュレーションし、創造する。」

地域創造論のテーマは3カ年ほど毎に設定し、これまでに「ポスト 3.11の新しい地域像」、「ローカルからの発想が日本を変える、世界を変える。」「地域はどう変わるか 2010年代から 2020年代に向かって」、「次世代の横浜・神奈川地域を素描する」としてきました。2023年度からは、「2050年までをシミュレーションし、創造する。」をテーマとして、2050年を「鮮やかに創造」できるようになるよう、「客観的な分析を通じたシミュレーション力」と「学際的な視点や知識を融合した創造力」を養うことを目標として、各講義とグループワークを実施しています。前半においては各専門の観点から地域課題を学び、後半は学生が学際的なチームに分かれてグループワークを行い、新しい地域創造に向けた提案・提言を行っています。

## ■ 講義



イントロダクション (+ 副専攻プログラムの説明)  
志村真紀 (地域実践教育研究センター)



「ゼロからの『資本論』」を読んで  
志村真紀 + 池島祥文 (国際社会科学研究院)



ポートランドに学ぶ地球本位のこれからの都市づくり  
山崎満広 (地域連携推進機構・客員教授)



リバブルな都市づくりに向けて  
三木はる香 (世界銀行東京開発ラーニングセンター)  
+ 山崎満広 (客員教授)



北欧における福祉・地域経済・産業  
遠藤聡 (環境情報研究院)



都市のプランニング・メソドロジー  
矢吹剣一 (都市イノベーション研究院)

## 空き家を活用し、多文化が共創することでオモシロイ未来を創造する横須賀

高須賀颯太（環境情報学府）/ 米田すずらん・白岩元彦（都市イノベーション）

私たちは、横須賀市を舞台に『空き家を活用し、多文化が共創することでオモシロイ未来を創造する横須賀』というビジョンを掲げた。横須賀市では、人口減少に伴い空き家の増加が見込まれており、特に丘陵地の団地ではその傾向が顕著である。しかし、資産価値のある空き家は市場に流通しにくく、所有者の愛着が活用の障壁となっている。そこで、所有しながら活用できる仕組みの構築が求められる。この課題を解決するため、横須賀市の特徴を活かしたアプローチを検討した。自然豊かな斜面地にある空き家は、自然と共生する暮らしを実現できる可能性がある。また、軍港としての歴史的背景により、多文化を受け入れる環境が整っており、互いに学び合い、常に自己研鑽を重ねることで、よりオモシロイ横須賀の未来を共に創り上げることは横須賀市でビジョン達成が可能であると考えた。このビジョンを実現するため、「伝道師」の育成と輩出に取り組む。地域に根ざした活動を通じて新たな価値を創出し、横須賀市全体の魅力向上を図る。本プロジェクトでは、横須賀の空き家を活用し、創造的なコミュニティを形成するために以下の施策を展開する。

### 1. 「改修する伝道師」の拠点確立

国内外の建築家を招き、負担なく自由に改修を行える環境を提供する。姉妹都市プレスト市の建築系大学や、国内の建築家ネットワークと連携を図る。

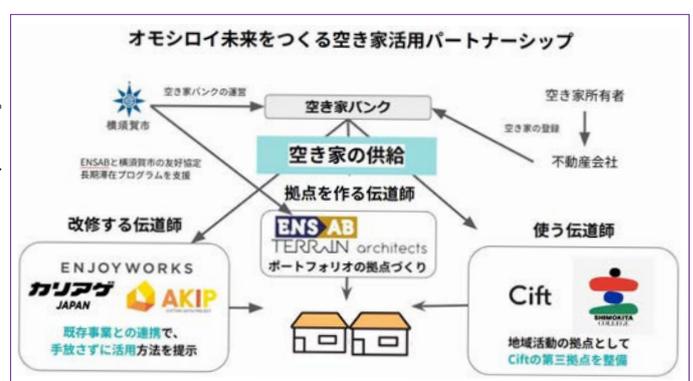
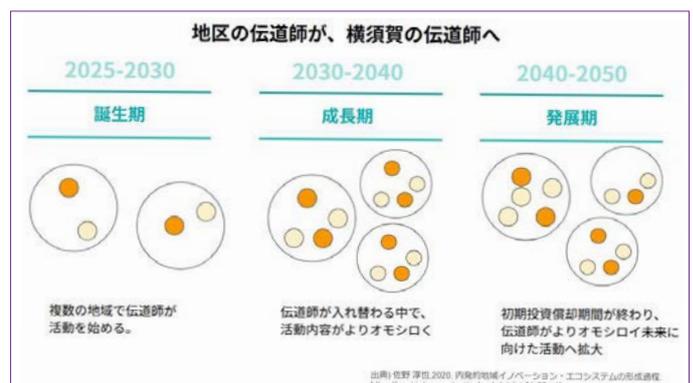
### 2. 「使う伝道師」の誘致

空き家を Cift の拠点とし、テレワーカーやアーティストなど、仕事と暮らしの両面でつながりを求める人々を受け入れる。下北カレッジと協力し、学びながら暮らす仕組みを構築する。

### 3. 愛着のこもった空き家提供ネットワークの構築

企業3社と連携し、空き家所有者の意向を尊重し、資産価値を維持・向上させながら活用できるネットワークを構築。

これらを循環させ、関わる人々が学び合いながら横須賀の未来を創造する。これらの取り組みを循環させ、関わる人々が学び合いながら横須賀の未来を共に創造していく。



## 暮らしが学びに一真鶴らしさを育てる

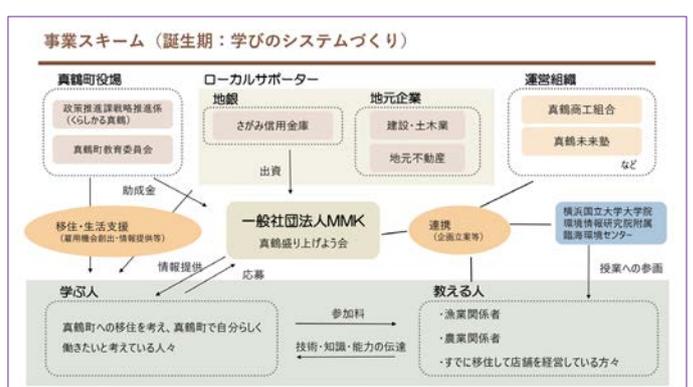
梶 遼太郎・范 均傑・宮内 爽太（都市イノベーション学府）/ 菅野 壮汰（先進実践学環）/ 高階 眞文（環境情報学府）

私たちは真鶴町を対象に、「美の基準を守り、景観を維持しながら、内発的發展が循環していくまち」を 2050 年のビジョンとして定めた。真鶴町では近年人口減少が著しい一方で、移住者が増加傾向にある。また、町独自のまちづくり条例『美の基準』を設定し、暮らしや風景を守り続けてきた。その中で、地元の方と移住者の方が思い思いに暮らし、活動する姿がより一層真鶴の魅力を引き出している様子から、私たちは【着飾らない、肩書きが無い「真鶴の人」たちがやってみたくことを自分のペースで実践できる地域】を真鶴らしさと定義した。そして、この真鶴らしさをさらに醸成すべく、「真鶴まるごと学校」と題し、真鶴への移住を考えている人向けに、真鶴の生業や暮らしを学び合い、教え合う場をつくることを提案する。

具体的には、「学びのフェーズ」「地域還元フェーズ」の2段階からなる。「学びのフェーズ」では1年間を一区切りとして、漁業や農業、真鶴に根付く暮らしなどについて実際に地元住民から学び、「事業構想フェーズ」では、学んだ人々の事業開始を支援する。

前者では、ローカルサポーター（地元銀行や地元企業）（以下LS）からの出資を基に、既存の一般社団法人 MMK（真鶴盛り上げよう会）を中心とした学びのシステムを構築する。MMK と LS は行政と連携して学びたい人々への移住支援と雇用支援を行う。コンテンツに関しては、地元商工会や真鶴に設置されている横浜国立大学臨海環境センターとも連携し、企画立案を行うとともに、学びたい人は、参加料を支払い、能力や技術を実践的に習得することを想定する。後者では、MMK が行政や LS と連携して、事業を始めたい人々への助言や必要に応じて出資等を行うことを想定している。

この提案により、教える側は技術の伝承や副業的な報酬、新たな交流による刺激を得ると同時に、学ぶ側は真鶴での生活を体感しながら技術を習得することが期待される。そのサイクルが繰り返されることで、各々がやってみたくことに自分も挑戦してみよう気運が醸成され、私たちが掲げるビジョンの達成を目指す。



## -1. 学際的研究

地域実践教育研究センターは学際的研究の場として研究活動を推進してきました。これまでに「神奈川県・大学発政策提案制度」においては、2013～2014年度に「県民総力戦による事前復興計画」、2015～2016年度に「未来につなぐ神奈川の里山 - 里地里山の保全効果に関する学際的研究」、2019～2020年度に「Woody～広葉樹の活用による地域活性化と県民の健康増進～」が採択され、学際的な研究の成果を提供してきました。なお、2017年からは地域連携推進機構にNext Urban Labが設置され、地域に関わる学際的研究の拠点機能は地域連携推進機構に移転しています。

## -2. 地域研究

毎年度末には当センターに関わる教員の研究室・ゼミで研究した成果として梗概論文を取りまとめ、「地域研究報」として「横浜国立大学学術情報リポジトリ」に保管しています。一般の方もウェブサイトを通じて閲覧することができます。

◆ 地域研究の各論文は、下記サイトおよび右記のQRコード先からご覧いただけます。

横浜国立大学 学術情報レポジトリ > 10 全学教育研究施設等 > 10-4 紀要 >

10-4-61 横浜国立大学地域実践教育研究センター地域課題実習・地域研究報



No.	論文タイトル名	執筆者, 担当教員名
1	新空港線（蒲蒲線）が蒲田駅周辺にもたらす経済効果	高橋駿弥, 居城琢
2	ヴィッセル神戸が神戸に与えた影響	林俊介, 居城琢
3	アイドルの野外単独コンサートにおける経済波及効果	平原由貴, 居城琢
4	地域ブランドと返礼品選択一ふるさと納税における特色欠如が与える効果一	土井瑠衣香, 居城琢
5	那須塩原市の市町村合併が地域に与える効果	渡辺壮真, 居城琢
6	横浜国立大学の税収効果と継続的にもたらす経済効果	中村直也, 居城琢
7	シーサイドラインが沿線地域に及ぼす経済効果研究	大澤一輝, 居城琢
8	横浜びあアリーナmmで行われた東海オンエアのイベントによる岡崎市への経済波及効果	大久保友稀, 居城琢
9	横浜国立大学の経済波及効果の推移 一海外研究によるアプローチからのヒントや違い、他産業との比較を交えて一	前田将希, 居城琢
10	東北ディステーションキャンペーンによる山形の観光業への効果検証	石原愛来未, 居城琢
11	メディアミックスプロジェクトのリアルイベントがもたらす経済効果 一ファンの熱中度による消費の変化について一	石井宏樹, 居城琢
12	中小規模音楽フェスティバルの開催が開催地域にもたらす経済効果	清川海音, 居城琢
13	湘南ひらつか七夕祭りの平塚市に対する経済波及効果	杉山史浩, 居城琢
14	国内外アーティストによるライブイベントの経済波及効果とSNS宣伝効果の比較・検討	小島美果, 居城琢
15	地上波におけるバラエティ番組の放送効果について	児島熙, 居城琢
16	地域における大学立地の意義 一横浜国立大学、富山大学、東京学芸大学、3大学における経済波及効果分析をもとに一	枝村磨生南, 居城琢
17	日本ゲーム産業に関する産業連関分析	山本涼太, 居城琢
18	小樽市の2つの商店街の経済効果	佐野主真, 居城琢
19	内港地区の公園に関するアンケート分析	佐藤一樹, 堀湖春, 居城琢
20	群馬県嬬恋村において鉄道を利用した観光客がもたらす経済効果	荻野豪, 居城琢
21	音楽ビジネスモデルの多様化が消費者行動に与えた影響	衛藤実有, 居城琢
22	東京ラーメンフェスタ2024が世田谷区に与える経済効果	近藤華乃, 居城琢
23	無料試合の観戦者が宮崎県経済に及ぼす経済波及効果分析	柳田悠貴, 居城琢
24	湘南ひらつか花火大会の経済効果	西尾緋時, 居城琢

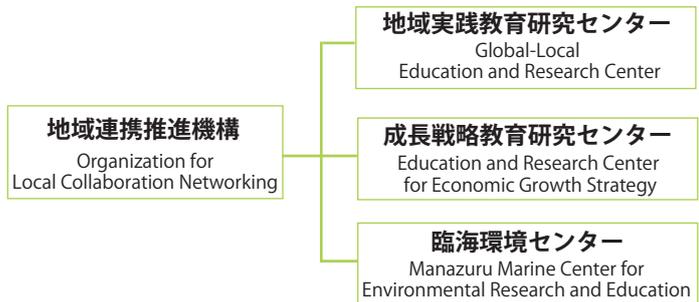
25	環境志向の企業立地が地域の地下水ガバナンスに与える影響 —サントリーの立地する地域を事例として—	二之夕 樹, 遠藤 聡
26	日本の中小都市におけるベンチャー創出とバイオテック産業形成 —山形県鶴岡市の「鶴岡サイエンスパーク」を事例として—	新谷 純, 遠藤 聡
27	社会性と経済性の統合的都市開発の実態分析 —小田急電鉄株式会社・下北線路街プロジェクトを事例として—	辻 花琳, 遠藤 聡
28	まちなか放課後等デイサービスの建築計画と児童の基本活動の関係 —東京都多摩市の施設を対象とした調査から—	安藤 真悠, 藤岡泰寛
29	超高齢過疎地域における高齢者の地域居住と食料調達行動の成立条件に関する研究 —奄美大島龍郷町を事例として—	今福 嶺, 藤岡泰寛
30	地域情報提供の試みを通じた地域に対する認識変化に関する研究 —まちづくり活動が展開している常盤台・羽沢地域の新住民を対象として—	篠沢 耕太, 藤岡 泰寛
31	民家活用型フリースクールにおける事業者の活動方針と空間整備の関係 —評価グリッド法による事業者へのヒアリング調査を通じて—	清水 悠斗, 藤岡泰寛
32	放課後児童クラブの移転がもたらす課題と可能性に関する研究 —神奈川県横浜市を対象として—	白銀 瑠子, 藤岡泰寛
33	公立小学校の避難所への空間転用と要配慮者対応の実態に関する考察 —熊本県を対象に—	泉田 佑太, 藤岡泰寛
34	郊外住宅地における屋外休憩スペースと高齢者の外出行動に関する研究 —鎌倉市I住宅地を対象として—	吉澤 歩, 藤岡泰寛
35	文化部活動の地域移行に対応しうる中高生施設の現状と課題 —施設職員への聞き取り調査から—	伴 このみ, 藤岡泰寛
36	単身高齢者の見守りに学生居住の定常化がもたらす影響に関する研究 —左近山団地における継続調査からの考察—	青柳 篤広, 藤岡泰寛
37	地域のシェアスペース利用者の交流の拡大に関する研究 —シェアスペース「小杉湯となり」を対象として—	花積 諒佑, 江口 亨
38	中央緑道の類型整理を通じた計画手法の把握と歩行快適性の評価 —東京23区内を対象として—	阿部百花, 野原卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
39	地域産業廃業後の産業景観の転用についての研究 —たたら製鉄業で栄えた島根県出雲町の鉄穴流し跡を対象として—	岩本なつみ, 野原卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
40	斜面地における生活道路の道路基盤整備事業の実態と効果について —長崎市 車みち整備事業を対象に—	竹澤智弥, 野原卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
41	東日本大震災の復興におけるトレイルの市街地通過状況と復興事業との関係 —みちのく潮風トレイルを対象として—	田中もも, 野原卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
42	八戸市中心市街地における通り抜け空間の構成に関する研究	渡部 耀, 野原卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
43	木造密集市街地における建築物の民泊転用による地域への影響に関する研究 —大阪市西成区における特区民泊の実態に着目して—	管 恩晨, 野原 卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
44	外部民間事業者と地域とともにつくる地域再生ビジネスの仕組みと事業展開に関する研究 —NIPPONIA事業の取組に着目して—	張 叡, 野原 卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
45	空き地活用の制度におけるマッチングのメカニズムに関する研究 —千葉県柏市カシニワ制度による空き地の需給調整に着目して—	安井 健悟, 矢吹剣一, 野原卓, 尹 莊植
46	路地の面的な再生及び保全に向けた計画のあり方に関する研究 —出水学区街区計画を対象として—	中能 泰知, 野原 卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
47	郊外住宅地における住民によるまちづくり活動の自走化と継続要因に関する研究 —横浜市青葉区『次世代郊外まちづくり』を対象として—	佐藤綺香, 野原 卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
48	環境重視型駅前空間の整備プロセスに関する研究 —多治見駅前「虎沢用水広場」を対象として—	山口佳恋, 野原 卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
49	タンジブルインターフェースを活用した都市デザイン手法の可能性に関する研究 —関内さくら通りを題材とした基礎的ワークショップを対象として—	東 陽輝, 野原 卓, 尹 莊植, 矢吹剣一
50	都市部におけるエネルギー自立性向上を目指した太陽光発電・蓄電システム導入シナリオの検討 —横浜市の地域特性を踏まえて—	糸川龍朗, 稲垣景子, 吉田聡, 種市慎也
51	海水浴場を有する地域における津波避難誘導標識の配置のあり方に関する研究 —GISを用いた避難シミュレーションによる検討—	矢野敦之, 稲垣景子, 吉田聡, 種市慎也
52	個人属性からみた地震発生後の滞留者行動分析と備蓄品配備に関する研究 —横浜市における疑似人流データを用いたケーススタディー—	山田隼大, 稲垣景子, 吉田聡, 種市慎也
53	木造住宅密集地域における地震火災の被害軽減策の検討 —横浜市中区柏葉を対象として—	上田 恵大, 吉田聡, 稲垣景子, 種市慎也
54	景観構成要素が街路空間の温熱環境と熱的快適性に及ぼす影響 —横浜市日本大通りを対象として—	宮沢七菜, 種市慎也, 吉田聡, 稲垣景子
55	大規模地震発生時における帰宅困難者の空間分布特性と課題 —神奈川県横浜市を対象として—	千野詩歩, 稲垣景子, 吉田聡, 種市慎也
56	小規模の保育施設の空気環境計画のための標準モデルの構築 —都市部に開設する複合型の保育施設を対象にして—	大西 達也, 田中 稲子, 清野友規



### 地域連携推進機構について

地域連携推進機構は、地域連携活動および地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点となるため、2017年4月に設置されました。地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、大学として積極的に地域連携活動を推進していきます。

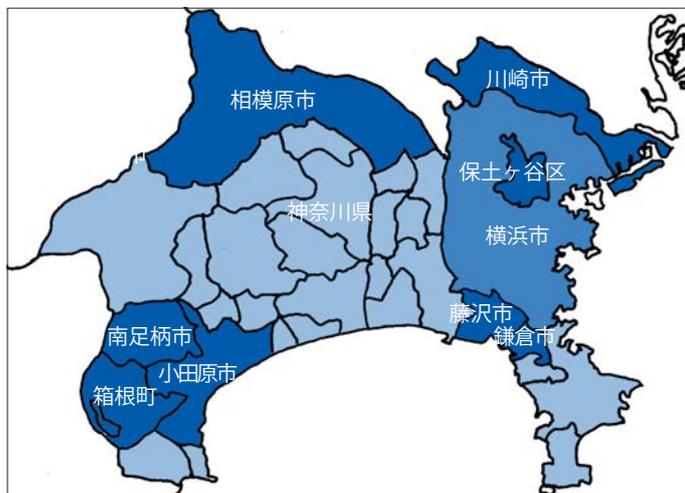
地域実践教育研究センターは2019年度から、成長戦略教育研究センターは2020年度から、臨海環境センターは2024年度から機構内センターとして位置付けられました。



### 地方自治体との連携協定

本学では、各地方自治体や事業者等と連携協定を結ぶことによって、より充実した教育活動や研究成果を創出・提供しています。

\* 藤沢市とは地域創生・地域活性化に関する連携協定を締結しています。



連携協定を締結している地方自治体

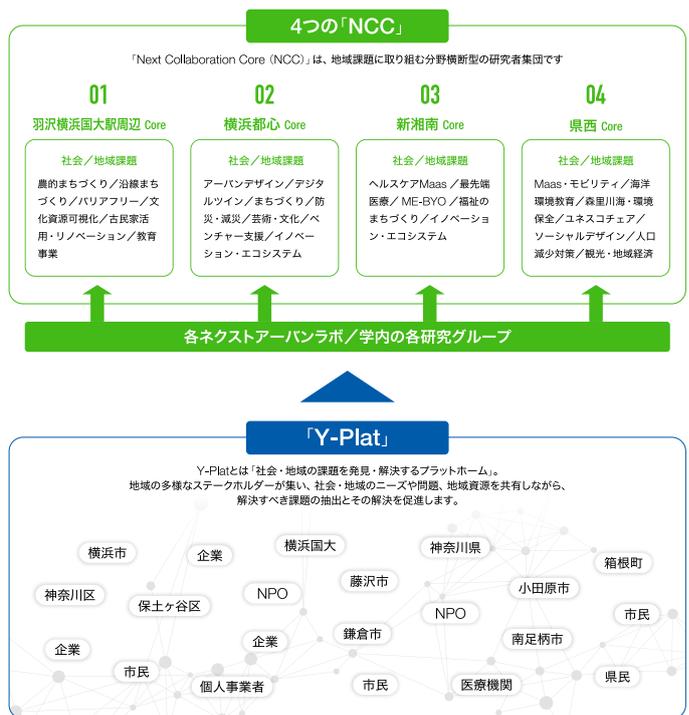
### 社会・地域課題の解決に取り組む Y-Plat & NCC

地域連携推進機構では、本学教員が地域と関わった研究活動を推進するとともに、その成果を可視化する「ネクストアーバンラボ」の仕組みをつくってきました。

2022年度からは、本学が有する多様な学術知・実践知を駆使した「社会・地域課題を発見・解決するプラットフォーム (Y-Plat)」を構築しようと取り組んでいます。

このプラットフォームでは、多様なステークホルダー（自治体、産業界、学校、市民等）と連携して、様々な社会・地域課題を発見し、本学教員による分野横断型のチームが中心となり、課題解決策を検討しています。

その取り組みの中で「ネクストアーバンラボ」を発展させた「ネクストコラボレーション拠点 (NCC)」を形成し、社会・地域課題の解決にさらに貢献できるように取り組んでいます。また、地域にサテライトキャンパスを設置し、これらの取り組みを支えています。



※ 詳しくは地域連携推進機構の Web サイトをご覧ください。

検索:

地域連携推進機構

## ■ 機構長



田中稲子  
Ineko TANAKA

副学長(地域担当), 地域連携推進機構長, 都市イノベーション研究院, 都市科学部・教授 / 建築環境工学, 住環境

## ■ センター長



氏川恵次  
Keiji UJIKAWA

地域実践教育研究センター・センター長 / 国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・教授 / 経済統計・経済モデリング, 環境経済学



志村真紀  
Maki SHIMURA

地域連携推進機構・准教授 / 地域・都市デザイン, 建築意匠, まちづくり, デザイン学

## ■ 客員教授



秋元康幸  
Yasuyuki AKIMOTO

地域連携推進機構・客員教授 / 都市政策, 都市デザイン

## ■ 客員教授



山崎満広  
Mitsuhiro YAMAZAKI

地域連携推進機構・客員教授 / 都市デザイン, 地域経済開発, 新規事業開発



池島祥文  
Yoshifumi IKEJIMA

学長補佐(地域担当), 国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・教授 / 農業経済学, 地域経済学



倉田薫子  
Kaoruko KURATA

環境情報研究院, 先進実践学環, 教育学部・教授 / 生物多様性保全, 植物地理学, 環境教育



小林誉明  
Takaaki KOBAYASHI

国際社会科学研究院(法学), 先進実践学環・准教授 / 政治経済学, 国際協力論, 開発政策研究, ODA 政策研究



居城琢  
Taku ISHIRO

国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・准教授 / 地域経済論, 産業連関論, 中小企業論, 環境経済論



倉田久  
Hisashi KURATA

国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経営学部・教授 / 経営工学, 経営情報論, サービス経営



松行美帆子  
Mihoko MATSUYUKI

都市イノベーション研究院, 都市科学部・教授 / 都市・地域計画, アジア都市計画論



佐藤峰  
Mine SATO

都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部, 准教授 / 国際開発学, 社会人類学, コミュニティ・デザイン



野原卓  
Taku NOHARA

都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授 / 都市計画, 都市デザイン



矢吹剣一  
Kenichi YABUKI

都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授 / 都市計画, 都市デザイン, まちづくり



尹莊植  
YOON Jangshik

都市イノベーション研究院, 都市科学部・准教授 / 都市計画, まちづくり



**本藤祐樹**  
Hiroki HONDO

環境情報研究院, 理工学部・  
教授 / 技術評価論, エネル  
ギー環境システム分析, ライ  
フサイクルアセスメント, エ  
ネルギー心理学



**小林剛**  
Takeshi KOBAYASHI

環境情報研究院, 先進実践学環,  
都市科学部・教授 /  
環境安全化学, 化学物質管理,  
都市環境汚染



**遠藤聡**  
Akira ENDO

環境情報研究院, 先進実践学環,  
都市科学部・准教授 /  
都市・地域経済学



**中村一穂**  
Kazuho NAKAMURA

工学研究院, 理工学部・准教授 /  
化学工学, 水環境工学,  
バイオプロセス



**内海宏**  
Hiroshi UTSUMI

非常勤講師 (地域連携と都市  
再生 A) / 地域・地区計画, 市  
民協働論, 地域・市民まちづ  
くり論



**為近恵美**  
Emi TAMECHIKA

地域連携推進機構・教授 /  
応用物理, ナノテクノロジー,  
アントレプレナー教育,  
イノベーション人材育成



**湯沢雅人**  
Masato YUZAWA

地域連携推進機構・非常勤教員 /  
マーケティング論, 製品開発論,  
イノベーション創出



**安野舞子**  
Maiko YASUNO

教育推進機構・准教授 /  
高等教育, リーダーシップ教育,  
人と動物の関係学



**原口健一**  
Keinchi HARAGUCHI

教育学部・教授 /  
木工・木彫



**山崎朱音**  
Akane YAMAZAKI

教育学研究科, 教育学部・  
准教授 / 舞踊教育



**森野かおり**  
Kaori MORINO

教育学部・准教授 /  
ピアノ



**山崎圭一**  
Keiichi YAMAZAKI

国際社会科学研究院, 経済学部・  
教授 / 途上国経済, ブラジル  
研究, 都市住宅政策, 住宅金融



**伊集守直**  
Morinao IJU

経済学部長  
国際社会科学研究院, 先進実  
践学環, 経済学部・教授 /  
財政学, 地方財政論



**大野敏**  
Satoshi ONO

都市イノベーション研究院,  
都市科学部・教授 /  
日本建築史, 建築技術史,  
伝統的民家の保存修復



**藤掛洋子**  
Yoko FUJIKAKE

都市科学部長  
都市イノベーション研究院,  
都市科学部, 先進実践学環・  
教授 / 文化人類学, 開発人類  
学, ジェンダーと開発, パラ  
グアイ地域研究

\*2025年度に予定している関連教員として、  
地域実践教育研究センターに関わる教員および運営委員をはじめ、  
地域交流科目 コア科目の担当教員、地域課題実習の主担当教員を掲載しています。



吉田聡  
Satoshi YOSHIDA  
都市イノベーション研究院,  
都市科学部・准教授 /  
建築環境・設備



藤岡泰寛  
Yasuhiro FUJIOKA  
都市イノベーション研究院,  
先進実践学環, 都市科学部・  
准教授 / 建築計画, 都市計画



寺田真理子  
Marikoi TERADA  
都市イノベーション研究院,  
都市科学部・准教授 /  
建築と都市のメディア・デザイン,  
キュレーション, コモニング



藤原徹平  
Teppei FUJIWARA  
都市イノベーション研究院,  
都市科学部・准教授 /  
建築設計, 建築意匠



稲垣景子  
Keiko INAGAKI  
都市イノベーション研究院,  
都市科学部・准教授 /  
都市・地域防災, 空間解析



江口亨  
Toru EGUCHI  
都市イノベーション研究院,  
都市科学部・准教授 /  
建築構法計画, 建築生産



三浦倫平  
Rinpei MIURA  
都市イノベーション研究院,  
都市科学部・准教授 /  
都市社会学, 地域社会学



小松怜史  
Satoshi KOMATSU  
都市イノベーション研究院,  
都市科学部・准教授 /  
都市防災, インフラ長寿命化,  
コンクリート工学



松本真哉  
Shinya MATSUMOTO  
環境情報研究院, 先進実践  
学環, 理工学部・教授 /  
環境教育, 化学教育, 色素化学



佐々木雄大  
Takehiro SASAKI  
環境情報研究院, 都市科学部  
教授 /  
地球変動生態学, 生態系評価学



島圭介  
Keisuke SHIMA  
環境情報研究院, 先端科学高等  
研究院, 総合学術高等研究院,  
先進実践学環, 理工学部・教授 /  
生体医工学, リハビリテーション  
科学, 知能ロボティクス



下野誠通  
Tomoyuki SHIMONO  
学長補佐 (研究・医工連携)  
総合学術高等研究院・次世代  
ヘルステクノロジー研究セン  
ター長 / 工学研究院・准教授 /  
モーションコントロール, 医療  
ロボット, アクチュエータ

## 地域実践教育研究センターからの出版物



## みんなのまちづくりゲーム in cities MINMACHI in cities

2022年3月発行

横浜国立大学 地域連携推進機構  
地域実践教育研究センター +  
南三陸研修センター 編  
(池島祥文+伊集守直+志村真紀+浅野拓也)

地域交流科目のコア科目「地域連携と都市再生B(かながわ地域学)」において、参加型授業の教材として用いられてきた「みんなのまちづくり in cities」が販売されました。このゲームでは、チームで地域の経済や行財政の仕組みを学びながら、自分たちが住みたいと思える、まち・地域を実現するためには、どのようなアクション・政策が効果的なのかシミュレートすることができます。

\*南三陸研修センターが運営するウェブサイトから購入できます。 <https://ms-minmachi.com>

### ■ 問合せ・連絡先

横浜国立大学  
地域連携推進機構  
地域実践教育研究センター

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3

横浜国立大学 経済学部1号館 406号室

TEL&FAX : 045-339-3579

E-mail : [chiki-ct@ynu.ac.jp](mailto:chiki-ct@ynu.ac.jp)

URL : <http://chiki-ct.info>

